

Japan Auto Parts Industries Association

JAPIA NEWS

2015
11・12

隔月刊
(通巻710号)

一般社団法人 日本自動車部品工業会

リ ク ル ー ト 特 集

車好きだけではなく 自動車部品メーカーを 選ぶ理由

—安定的な成長のために—

DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.6

アジア新興国経済の減速と今後の見通し

支部活動レポート

中部支部

<http://www.japia.or.jp>



地球を舞台にしたスポーツは、
自分勝手なルールではゴールできない。

デンソーは、この惑星を走るランナーとして
環境技術を進化させる。

地球とクルマの調和のために。

ホ シ
この惑星を技術で守りたい。

DENSO

おかげさまで、70周年。

事業内容

▼自動車部品事業

排気系部品、ボデー骨格部品、
内外装機能部品、足回り部品、
燃料系部品

▼情報環境機器事業

▼外販設備、金型事業

70
FUTABA
70th Anniversary
since 1945

フタバ産業株式会社 岡崎市橋目町字御茶屋1番地

Koito



安全を光に託して

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。

小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

株式会社小糸製作所

〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号
TEL: 03-3443-7111 (代表) <http://www.koito.co.jp>

自分の限界を 自分で決めるな。

トヨタ紡織は常に挑戦を続けてきた。

「快適」という数値化の困難な課題に対して、
運転時の揺れや振動の再現、
シートにかかる圧力の分布を計測することで、
“乗り心地”を科学的に分析し、日々あくなき追究を重ねている。

わたしたちが恐れているのは、
「できない」と思いこんで、これからの成長の芽を摘んでしまうこと。
不可能と思った瞬間に、人は思考をやめてしまうものだ。
「どうすればできる？」 そう問い直してみるだけで、
目の前に立ちはだかっていた壁は、超えるべきハードルへと姿を変える。
次の瞬間には、きっとあなた自身がそのハードルの超え方を模索し始めている。

トヨタ紡織にとっての次のハードルは、乗り物の種類という領域を超えること。
どんな乗り物でも、トヨタ紡織の「快適な乗り心地」を体感してもらうには、何ができるか。

トヨタ紡織の「快適な乗り心地」に関する技術への挑戦に、限界はない。

トヨタ紡織が生み出す製品は、様々な領域に広がっています。



シート



ドアトリム



エアクリナー



ハイブリッドシステム用
モーターコア構成部品



北陸新幹線グランクラス搭載シート



航空機シート

イワタボルトの グローバルネットワーク



国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木
- ・上田・群馬・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋・刈谷
- ・三重・大阪・福岡・久留米

海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ（ロサンゼルス・アトランタ・
オハイオ・ナッシュビル）・メキシコ・カナダ

認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得・更新年月	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	2009年12月	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	2011年4月	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	2009年12月	YKA200001	LRQA
アメリカ	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	2010年1月	0772850	LRQA
	ISO 9001:2008	IWATA BOLT USA, INC.	2010年9月	FM549851	BSI
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA, INC.	2010年3月	EMS549810	BSI
シンガポール	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD.	2009年7月	94-2-0318	PSB
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD.	2010年9月	2004-0265	PSB
タイ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	2010年10月	TH07000507	BVQI
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	2010年11月	0079530	TUV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04100062166	TUV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04104062166	TUV NORD

【IB】イワタボルト株式会社

〒141-8508 東京都品川区西五反田2丁目32番4号

電話 03(3493)0211(代表)

<http://www.iwatabolt.co.jp/>

「企業は人」
人材育成
環境が変化しても
長し続ける
人材を育てる

人材育成制度

037 社

目標設定研修

075 回

評価者能力研修

540 回

昇格者選抜評価

143 回

人事・人材開発支援の

主な実績企業

アイシン・エーアイ株式会社
アイシン化工株式会社
アイシン機工株式会社
アイシン軽金属株式会社
アイシン・コムクルーズ株式会社
株式会社アイシン・コラボ
アイシン精機株式会社
アイシン辰栄株式会社
アイシン高丘株式会社
NTN 株式会社
株式会社キャタラー
埼玉工業株式会社
株式会社ソミック石川
津田工業株式会社
株式会社デンソーエアシステムズ
株式会社デンソーセールス
デンソーテクノ株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社豊田自動織機
浜名湖電装株式会社
浜名部品工業株式会社
豊生ブレーキ工業株式会社
マブチモーター株式会社 他(50音順)

株式会社シナジーパワー

愛知県名古屋市中区丸の内1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F
TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002
E-MAIL info@synergy-power.co.jp

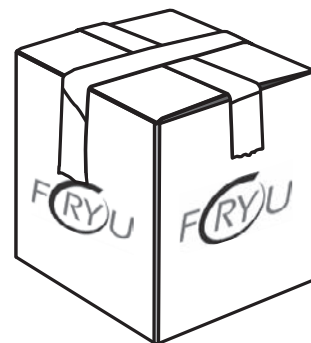
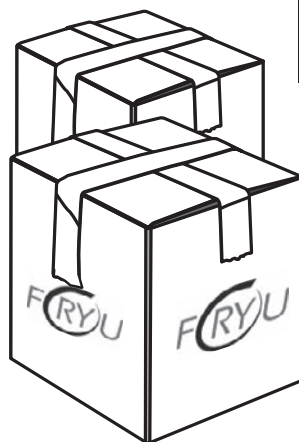
日本から中国へ、中国から日本へ、

航空貨物より速く、
クーリエよりも速く貨物を運びたい…

定期便ご利用なら、
¥10,000 より

フォーユーエクスプレス

日本  中国間



同日即配！通関業務もお任せ下さい！

最速

安心、確実、丁寧な
ハンドキャリーで
皆様のご要望に答えます。

TEL : 03-5651-5685 Mail : info@foryouexpress.jp
FAX : 03-3661-8170 URL : <http://foryouexpress.jp/>



フォーユーエクスプレス

検索

自動車部品の設計・製造 技術情報管理



D-QUICK7

純日本製

日本の製造業の
発展に寄与すべく
ソフトウェアも
頑張っています

生粋の日本製。だから…かゆいところに手が届く！

- ・図面や3D-CADの構成情報管理が可能
- ・誰でもすぐ使えるWindowsライクな操作画面
- ・版管理機能による最新図面の共有環境を実現
- ・多言語対応によりグローバル環境での実績多数
- ・国内外拠点での情報共有に最適
- ・ノンカスタマイズで調達・生産管理などの他システム連携が可能



お問い合わせ総合窓口 製品デモも紹介可能です。ぜひ、お問い合わせください。
株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ（富士通SSL）
〒211-0063 川崎市中原区小杉町1-403武蔵小杉タワープレイス

E-mail : ssl-info@cs.jp.fujitsu.com
当社ホームページ <http://www.ssl.fujitsu.com>

■検索は… [富士通SSL](#) [アイサイト](#)

検索

YOROZU

製品の開発・設計・生産から設備の製造まで一貫した生産体制

《企業ビジョン》

サスペンションシステムを通じて新たな価値を生み出し
“ヨロズブランドを世界に”

《営業品目》

- 自動車部品
 - サスペンション部品（サスペンションメンバー、リンク等）
 - ボディ部品（ボディプレス部品等）
 - ブレーキ部品（ブレーキペダル等）
 - エンジン部品（オイルパン、エンジンマウントブラケット等）
- 生産設備、金型
- 農機具部品



株式会社 ヨロズ

<http://www.yorozu-corp.co.jp/>

本社 / 横浜市港北区樽町三丁目7番60号 Tel 045-543-6800 Fax 045-543-7910

国内 / 栃木県小山市、大分県中津市、愛知県名古屋市、山形県鶴岡市、山形県東田川郡

海外 / アメリカ（テネシー州、ミシガン州）メキシコ（アグアスカリエンテス州、グアナファト州）

タイ（ラヨン県）中国（広東省、湖北省）インド（タミルナドゥ州）インドネシア（西ジャワ州）

ブラジル（リオデジャネイロ州）

どこでも 見られる 使える 電子版!

日刊自動車新聞 新 電子版

パソコンやスマホでニュースをチェック! 新聞紙面の記事はもちろん、ウェブならではの速報対応で、業界動向をリアルタイムでお伝えします。電子版でしか読めないコンテンツが満載。気軽に使える情報ツールとしてお役立てください。



これでビジネスの幅が
広がります!

海外でも
読めます



外出時や出張先、
海外でもご利用OK!

外出先や海外でも、ちょっとした
空き時間を利用して気になる記事
をチェックできます。



過去の記事もすぐに探せる
バックナンバー検索

全文検索機能でキーワードからの
記事検索もラクラク。期間を指定
しての検索もできます。



過去の記事
2013年
2012年
2011年
2010年

速報
機能



無料のお試し購読はこちらから

<http://www.netdenjd.com/>

購読の申し込み・お問い合わせ

日刊自動車新聞社

販売推進部

〒105-0012 東京都港区芝大門1-10-11 芝大門センタービル3階 TEL: 03-5777-2318 FAX: 03-5777-2319
E-mail: hanbai@njd.jp

巻頭言

Introduction

全ての基礎を支える 中小企業



中小企業施策委員会
委員長・石川 伸一郎

[石川ガasket株式会社 取締役社長]

中小企業施策委員長を務めさせていただいている石川でございます。会員の皆様には、日頃より中小企業施策委員会の活動に御協力いただき、改めて御礼申し上げます。

政府の中小企業統計を見て見ますと、中小企業は事業者数で99.7%（内、小規模事業者86.5%）、従業員数では69.7%（内、小規模事業者25.8%）を占めています。正に日本の産業の土台を支えていると言って良いでしょう。この比率については大きな変動は無いようですが、事業者数は漸減傾向にあるそうです。生産年齢人口が減少している中、影響を受ける部分もあるとはいえ、日本の産業構造の変化に繋がる要因として、注視していかななくてはならないと感じます。

私たち日本自動車部品工業会も、会員の約半数が中小企業会員です。自動車関連産業においても、グローバル企業である自動車メーカーを頂点とした、ピラミッド構造の基礎を支えているのは、会員企業を含め

た無数の中小企業という構図は変わりません。

その国の経済の基礎を支えるのが中小企業であるという点は、多くの国でも同様です。米国では、企業の99.9%が中小企業に分類され、アメリカ経済の貴重な担い手であり、経済発展の強力な牽引役だそうです。欧州各国でも同様で、EU全体で99.8%が中小企業であり、付加価値の6割、雇用の7割を占めているそうです。

その中でも日本の中小企業の特色は、いわゆるニッチトップ、非常に小さな特殊なマーケットではあるが、その中では世界一、世界唯一といった企業が沢山存在する事だと言われています。自動車部品業界にも、私たち日本自動車部品工業会会員企業の中にも、そういう会社が少なくない事からも、日本の中小企業の特色の一つであるのは間違いなかならうと思います。資源もエネルギーも無い日本が、世界有数の産業競争力

を維持し続けていられるのも、こうした特色ある中小企業が数多く存在する事と、無関係では無いと感じます。

しかしこうしたユニークな中小企業でも、中小企業であるが故の弱点も持っています。大きな経済変動、天変地異・災害、事故などに際しては、大企業と比べ企業体力はどうしても見劣りします。また人材獲得、グローバル展開への対応力等も、中小企業にとっては厳しいものがあります。行政からもこうした点への補助等の手助けは沢山ありますが、それで全てが解決する訳ではありません。

自動車部品工業会でも、会員の半数を占める中小企業会員向けの対応は、工業会の各種課題の中でも最重点課題の一つとして、取り組んでいます。是非今後も当委員会活動に御支援、御協力を御願いすると共に、数多くのユニークな取り組みをしている会員企業を、そして全国の中小企業に是非御注目をお願いします。

リクルート
特集

車好きだけではなく 自動車部品メーカーを 選ぶ理由

——安定的な成長のために——

企業の採用意欲が旺盛になるなかで、新卒採用は少子高齢化を背景に売り手市場へと変化している。なかでも、自動車部品メーカーが求める技術者、いわゆる理系出身者の就職先は多様化しており、若者の『自動車離れ』もあって従来のような採用活動では必要な人材を確保するのが困難な状況となっている。こうした環境は欧米諸国でもあり、米国ではビッグ3への就職を希望する学生が、将来性を疑問視する両親から別方面への選択を求めるケースもあるという。将来の成長に向けていかに安定的に人材を確保するか、自動車部品メーカーにとって大きなテーマとなっている。

学生エンジニアの目線

日本自動車部品工業会と日刊自動車新聞社は9月、静岡県で自動車技術会が開催した「第13回全日本学生フォーミュラ大会」会場で昨年に続き参加学生の自動車業界に対する就職活動の意識などについてアンケート調査を行った。自らが企画・立案し製作、レースにのぞむ学生フォーミュラはスポンサー獲得からコスト計算、広報活動を含めたチーム運営などレースだけではなく自動車にかかわるものづくりすべての力を競う大会だ。欧米でも開かれている学生フォーミュラは、学生に対する自動車への関心を高めると同時に、それぞれの地域における自動車、関連メーカーの採用につなげる場としての役割も担っている。大学・

学生だけでなく企業からも熱い視線が向けられているわけだ。

今回のアンケート調査は、部品メーカーなどが企業アピールするスポンサーブースに出展し昨年を上回る240人から有効回答を得た。このうち、「就職先として、自動車業界を志望しているか？」（グラフ1）への問いには、半数以上が「志望している」と回答、「興味・関心がある」と答えた学生も46%を超えた。合計では回答者のうち97%の学生が自動車業界を就職先として考えていることになり、大会参加者の自動車業界への関心の高さをうかがわせている。

自動車業界への志望理由として「学生フォーミュラを通じて自動車業界に興味を持った」という回答が複数あり、比較的多い解答だった「自動車好き」に対して、実際の活動を通じて自動車の面白さを体感

し興味をもったといえそうだ。祖父、あるいは父親、親戚が自動車会社に勤務していたとする学生の回答からは、日本における自動車産業の歴史を感じさせるともいえる。

半数が部品メーカーを志望

自動車業界を志望すると回答した学生が目指す就職先はどこか（グラフ2）。80%が自動車メーカーを目指す一方、部品メーカーへも50%以上が就職先を選んだ。自動車業界に興味・関心があったとした学生はさ



らに顕著（グラフ3）で、自動車メーカーへの志望が67%に対し、自動車部品メーカーは53.2%に達した。両者を合わせた合

玉村会長が大会会場を視察

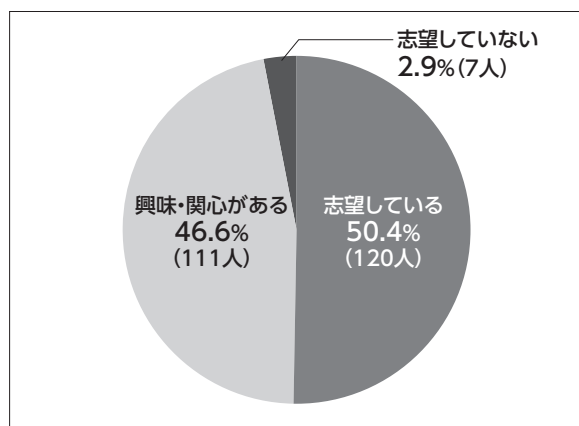
全日本学生フォーミュラ大会に対しては自動車団体も注目している。日本自動車部品工業会の玉村和己会長は後援団体として会場を訪問、日本自動車工業会池史彦会長、主催者である自動車技術会の加藤光久会長らと共に大会会場を視察した。初めて会場を訪れた玉村会長は「躍動感あふれる素晴らしい大会」だと、将来の日本を担う学生等の取り組みに期待を寄せた。一方で、大会規模が拡大するなかで「日本の自動車部品メーカーがすべて、このような形で学生への応援やPRが出来るわけではない。そこをやるのが部工会や大

手部品メーカーの役割だ」とした。

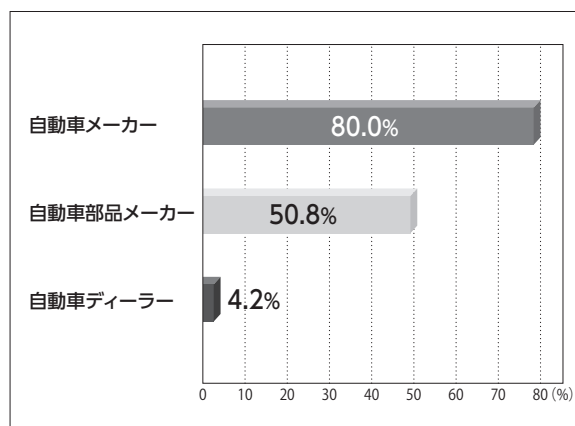
池会長は「燃費やタイムだけでなく、コストやプレゼンテーション力が必要で、技術だけの競争ではない。社会人になる一歩手前で貴重な体験ができる」と大会の存在意義を強調した。加藤会長は「大会は定着し、学生の間では『エコパ（スタジアム）で会おう』が合言葉になっている。スポンサーの資金援助だけでなく、（全国の）大学の地元の部品メーカーや新車ディーラーの協力も大きい」と、後援、協賛を含めた関係者に感謝の意を評した。



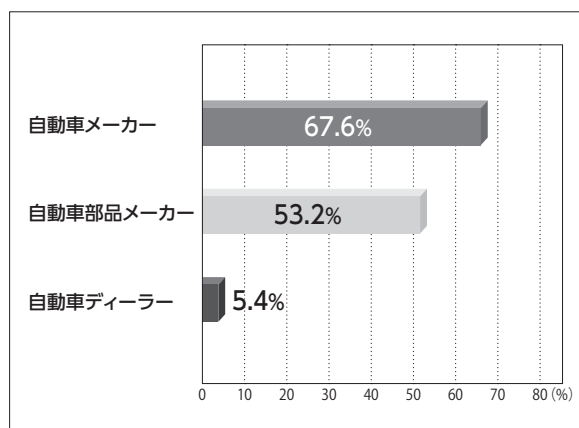
グラフ1 就職先として自動車業界を志望する？



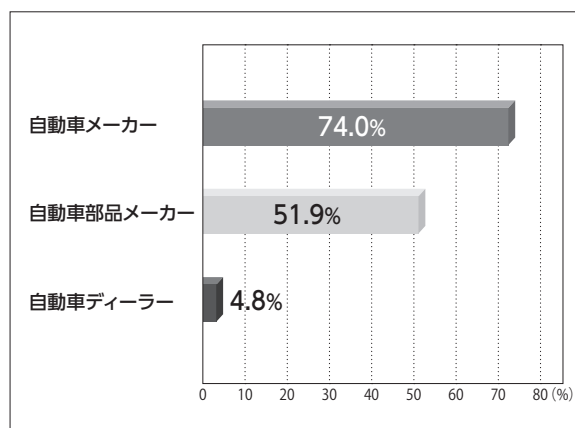
グラフ2 自動車業界を志望している回答者の志望業種（複数回答）



グラフ3 自動車業界に興味・関心がある回答者の志望業種（複数回答）



グラフ4 グラフ2と3の合計



計では（グラフ4）、自動車メーカーが74%、自動車部品メーカーが51.9%に達した。昨年の調査では自動車メーカーが63.9%、自動車部品メーカーへは24.6%が就職先の業種として選択しており、ともに昨年の結果を上回っただけでなく、自動車部品メーカーへの志望は倍増した結果となったのが大きな特長だ。

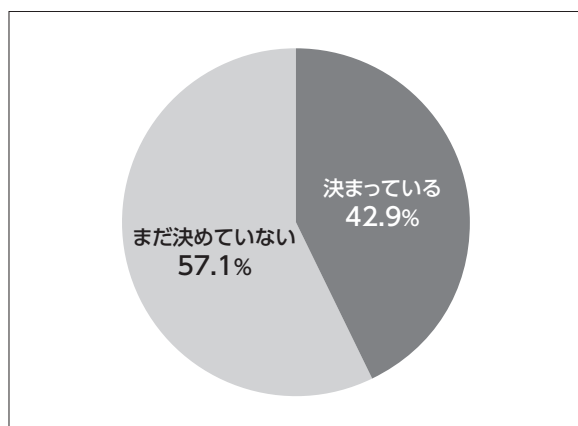
このうち、自動車部品メーカーへ志望する学生の回答では「自動車の電気系に興味がある」「自動車等機械に興味がある」「学生フォーミュラを通じてシャシ関係の開発や設計に携わりたくなった」など、分野を

絞り込んだコメントが目立った。化学系の専攻で「自動車の材料等、化学と自動車の両方がかかる分野に興味がある」とする学生も。トランスミッションやエンジン関係など、部位別に志望する学生もいる。もちろん、車好きを回答にあげる学生も目立った。「愛知県に自動車関係の企業が多く、愛知県で就職したいため」とする就職地域で選択をする学生もいた。

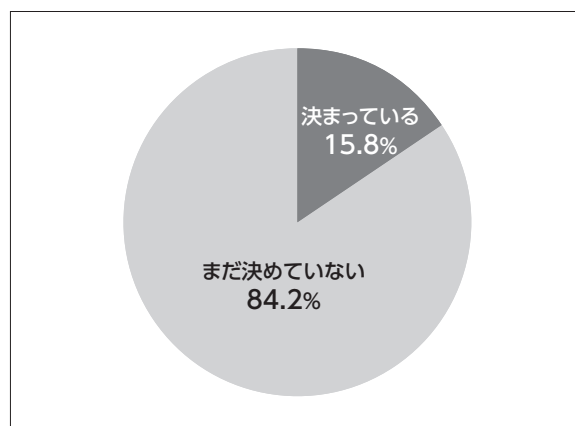
4 割が就職先を決定

自動車部品メーカーを志望する学生の企

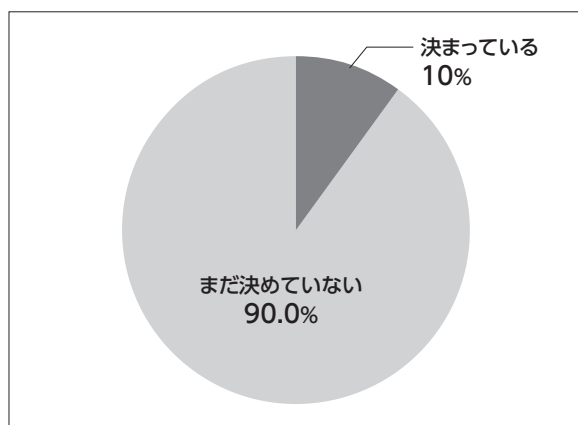
グラフ5 自動車部品メーカーのみを志望する回答者の志望企業



グラフ6 自動車部品メーカーに加え他業種も検討する回答者の志望企業



グラフ7 グラフ5と6の合計



業への志望状況についても尋ねた。調査時期は大会の開かれた9月上旬となる。自動車部品メーカーだけを志望する学生については（グラフ5）、全体の42.9%が自動車部品メーカーの志望先を決めているとした。残る57.1%が未定となる。ただ、今回アンケート回答者は大学1年生から大学院生までと幅広いため、多くの学生が志望先を決めているともいえる。一方、自動車部品メーカーを志望先のひとつに含む学生は（グラフ6）、志望先が決まっているとした回答が15.8%で、逆に84.2%が未定だった。両者を合わせた全体では（グラフ7）、決まって

いるとした回答が10%だった。

仕事選びの指針は先生や先輩から

社会人を目指していかに企業を選ぶか。「就職先を選定する情報源として、重要な項目は」（表1）との問い（複数回答）に対しては、「先生や先輩、知人」が77.8%で、昨年の75.0%を上回った。これに「学校への求人情報」の51.9%、「企業訪問」の41.4%、「インターネット検索」の38.5%が続く。順位は昨年と同じだ。いかに企業を選ぶか、学生らは先生や先輩などまずは身近な所から情報を収集し、将来を託すべき企業を探しているともいえそうだ。学校への求人や企業訪問など昨年に比べて大きな変化はないだけに、企業選びの手法はある程度固まっているともいえる。今大会を支援する自動車メーカーや自動車部品メーカーもこうした気風を盛り込んでおり、学生等にとっては旧知ともいえる入社2～3年目の先輩を会場に送り込んでいる。

学生らが就職先を選ぶ理由として重視する企業の条件とはなにか（表2）。最も高い

表1

回答数239人 複数回答可

Q あなたにとって就職先を選定する情報源として重要な項目は何ですか？	2014 比率 (%)	2015 比率 (%)
先生や先輩、知人	75.0	77.8
学校への求人情報	46.4	51.9
企業訪問	38.8	41.4
インターネット検索	36.2	38.5
就職セミナーなど	33.2	34.7
求人サイト活用	25.5	25.1
雑誌、新聞など	14.8	10.0
その他	1.5	1.7

表2

回答数239人 複数回答可

Q 入社希望として強くこだわる企業の条件とは？	2014 比率 (%)	2015 比率 (%)
仕事の内容	58.7	63.6
将来性	55.1	56.1
給与・待遇面	51.5	54.8
社風・風土・経営理念など	41.3	47.7
企業及びトップの考え方	29.1	22.2
取り扱い商品	17.9	27.2
企業規模（売上高、利益、社員数など）	16.3	23.0
認知度の高さ	15.3	13.4
その他	2.6	2.1

のが63.6%の「仕事の内容」で、これに「将来性」56.1%、「給与・待遇面」54.8%が続く。順位は昨年と同じだ。続いて「社風・風土・経営理念など」が47.1%、「取扱商品」27.2%としている。当然だが仕事内容を筆頭に自らを託すに足る将来性、そして待遇となるわけだ。企業トップの考え方や企業の規模については20%台にとどまっており、とくに企業及びトップの考え方や認知度の高さは昨年に比べ減少した。学生等にとっては仕事内容や将来性が企業を決める

うえで重要なカギを握っているといえそう。それだけに、採用活動を行う企業にとっては先生や先輩を通じた自社認知度の向上により選択肢の中に入ると共に、学生が志望先を決めるうえで重要な決め手となる仕事の内容、大きくは企業が取り組んでいる事業や社風や風土、経営理念などを着実に伝えていく必要があるともいえる。アンケート結果からはむしろ、学生等は企業イメージではなく、自らの将来像を睨みながら手堅く、正確に企業を分析して進路を決めようとする姿が浮き彫りになっている。

企業のPRコーナーの印象は

企業の展示、PRコーナーでは実車展示への関心だけでなく、開発者との会話や経験談に耳を傾ける様子がうかがえた。クリーンディーゼルや機能部品、「あまりメーカーが集まって展示している会場に行ったことがなかったのですべてが新鮮だった」とする声もあった。シミュレーションや3Dプリンタなどへの関心も高く、実車開発のためか「計測機器が面白い」とも。レースに対するエピソードでは、資金不足や調達に係る苦心、調達困難に伴う再設計やチームワークなど幅広い分野での取り組みが上がった。そのなかで各チームをサポートする企業のアドバイスや技術的なサポートなど、資金や製品提供だけでないつながりが深くなる効果があるようだ。

出店者数は大幅増

学生フォーミュラに参戦する学生らと部品メーカーをはじめとする企業との交流の場となる「企業PRコーナー」の出展者数は、昨年の33社から大幅に増加し50社あまりに達した。展示ブースでは、今大会のスポンサー企業が自社製品をはじめ企業紹介を熱心に進めた。初参加企業は、学生らとの出会いの場として「就職セミナーなどと違い、より本音で話し合える」と次年度以降の参加も検討するという。構えた発言が目立つ就職セミナーに対し、会場ではよりフランクに相手の人柄が見えるからだ。国内だけでなく、海外子会社が現地チームをサポートする企業は幅広い交流の場として役立てたいとしている。

若手エンジニアの教育の場として活用する企業もある。展示期間中毎日、交代で若手エンジニアがブースに入り、学生との交流で刺激を受け次のものづくりに役立てるのが狙いだという。企業の認知度向上だけでなく、学

生らとの交流によって自社への刺激に役立てるわけだ。会場には企業のエンジニアを始め採用担当者らも待機し、学生、そして来場した市民との交流に努めた。昨年に比べ50%増という出展企業の増加は、会場での有用性を企業がより認識したということだろう。「今回からは通常の出張、業務として来ました」という担当者もあり、担当者の手弁当の時代をへて企業と自動車業界を志望する学生との恒常的な場として重要な役割を果たしている。

学生チームをスポンサーするメリットも大きい。スポンサーの立場から製作途上にある学生チームを直接大学に応援に出向く機会もあるだけに、学生らの接触の機会を増やす上で大きく役立っているからだという。コストや技術的な問題、チーム運営など様々な相談を通じて、学生、そして企業の担当者にとっても相手が見えてくる。お互いを知る場として大いに役立っているわけだ。



盛況だった企業PRコーナーには玉村会長も視察した

アジア新興国経済の減速と今後の見通し

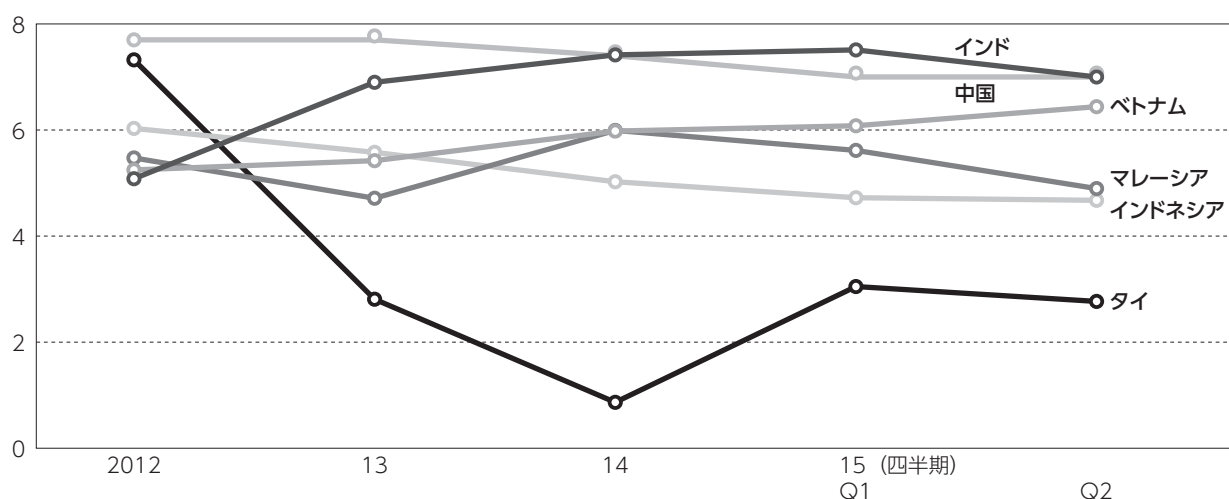
中国経済の減速は、世界同時株安を引き起こしたばかりでなく、実体面からも世界経済に影響を及ぼしている。中国では、リーマンショック後に大規模な経済対策を実施し世界経済の成長を牽引したが、その後に過剰債務、過剰生産能力などの問題が顕在化した。現在は、こうした問題の解決と消費主導の成長を目指して構造改革に取り組んでいるが、統計の信頼性の問題もあり、公表されている7%前後の成長よりも減速しているのではないかという疑心暗鬼が払拭できない状況にある。

中国以外のアジア新興国についても減速が続いている（図表1）。国別にみると、マレーシアでは15年4月の消費税（物品・サービス税）導入による駆け込み需要の反動減によって経済は伸び悩み、タイでは軍政長期化でマインドの改善が遅れる中、農産物価格の低下による農家所得の減少で個人消費が振るわず、インドネシアでは政府予算執行の遅れで政府支出が伸び悩んだ。それぞれに不振となった要因は異なるものの、輸出の低迷が経済成長を下押しした点が共通してみられる。

アジア新興国の輸出低迷の背景には、中国経済の減速がある。アジアでは、中国を核としたグローバルサプライチェーンが形成されており、マレーシアやタイをはじめ中国への輸出依存度が高く（図表2）、中国経済の減速に伴い、足元の輸出入は、アジア新興国の多くで前年割れとなっている。追い打ちをかけているのが資源価格の低下である。昨年末からの原油価格急落によりエネルギー価格が全体的に低下したことに加え、銅や鉄鉱石等の鉱物価格も、主要消費国である中国の需要伸び悩みに加え、8月の世界同時株安で金融市場にリスク回避的な動きが広がったことから低下した。新興国では、中国と資源への程度依存しているかが明暗を分ける構図となっており、依存度が高いインドネシアやマレーシア等が2重の負担を負う状況となっている一方、依存度が低いインドは比較的底堅い成長を続けている。

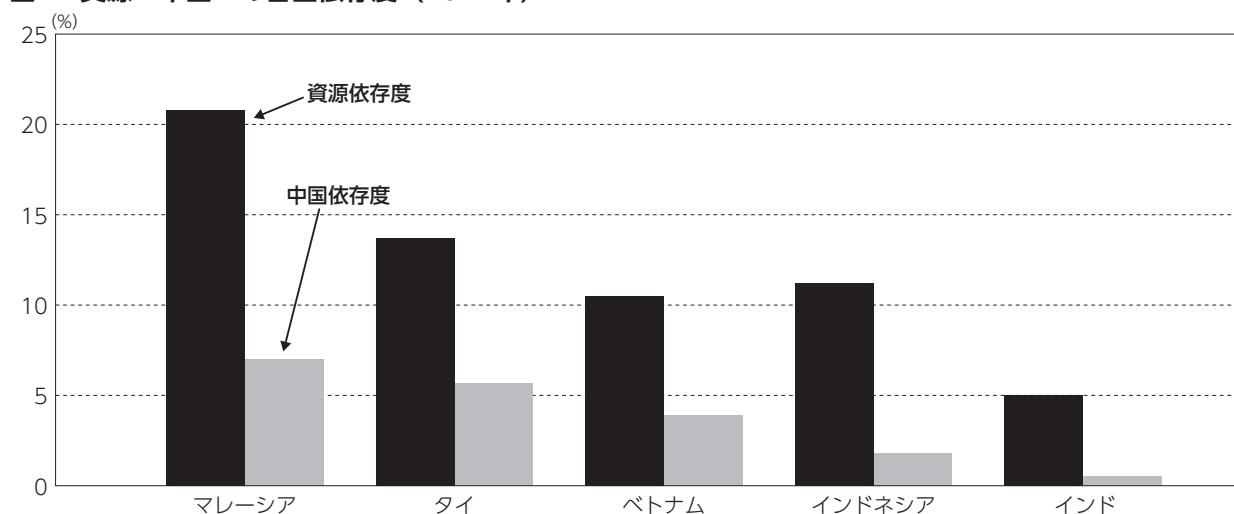
アジア新興国にとってさらなる負担となる可能性があるのが年内にも見込まれる米国の利上げである。米国が利上げを開始すれば、

図1 アジア新興国の経済成長率長率



備考) 1.IMF、各国統計局、中銀 2.インドは年度 3.アジア新興国はASEAN5、中国、インド

図2 資源・中国への各国依存度 (2014年)



備考) 1.UNCTAD、IMF 2.ドルベース 3.中国向け輸出額及び一次産品輸出額の名目GDP比

これに前後して新興国に流れ込んでいた緩和マネーが流出し、通貨が下落する可能性があり（前号本欄参照）、すでにマレーシアやインドネシアでは通貨売りの動きがみえ始めている。足元では、海外からの短期借入に比して外貨準備は潤沢な国が多く、90年代後半のアジア通貨危機のように連鎖的に通貨が暴落する可能性は高くない。しかし、通貨安は輸入インフレによる経済混乱等の負担をもたらす上、輸出低迷で経済に勢いがいない中で通貨防衛のために利上げを行えば、景気を一段と冷やすことになる。当面、アジア新興国経済は力強さを欠く推移となるだろう。

10月公表のIMF世界経済見通しでは、新興国の減速を背景に2015、2016年ともに成長率が下方修正され、15年は14年からの減速がはっきり示された（15年3.3%→3.1%、16年3.8%→3.6%）。アジア新興国の見通しも、中国経済の減速、資源安、資金流出による下押し圧力が強まる中で、2015、16年の見通しがそれぞれ6.5%、6.4%と、15年は7月時点から0.1%引き下げられた。先進国に比べると、依然高い成長率ではあるものの、インドネシアではジョコ大統領の支持率が低下する等の政治的基盤の弱さがみられ、タイも軍政長期化が見込まれる等、アジア新興国のシナリオは、中国経済の一段の減速リスクだけでなく、

各国の要因によっても一段の下方修正含みと考えることが適切かもしれない。

長い目で見た時にアジア新興国の課題となるのは、一人当たりGDPが3千ドルを超え、中所得国となったマレーシアやタイ、インドネシアが、韓国や台湾のように高所得国への仲間入りを果たせるかどうかであろう。これまでのアジア新興国の成長パターンは、安価な労働力と外資導入に頼っていたが、次第に賃金が上昇し、外資がより低賃金の後発国にシフトする可能性がある。各国とも、中所得国到達後に成長ペースが低下し、高所得国グループに到達できない状況、いわゆる「中所得国の罠」に対する警戒心は強い。これまでのような外資導入が期待できなくなる中、技術力を高め、新しい産業や製品を自ら生み出していく力を身につけられるかどうか、が、「中所得国の罠」に陥らずに今後も高成長を持続し、高所得国グループに仲間入りするための鍵になるとみられる。

参考文献：

- IMF (2015) "Recent Developments and Prospects," *World Economic Outlook*, October, Chapter 1.
- 内閣府 (2013) 中所得国の罠の回避に向けて、『世界経済の潮流』Ⅱ号、第2章第1節、12月
- 日本政策投資銀行 (2015a) *DBJ Monthly Overview*, 9月号、10月号
- 日本政策投資銀行 (2015b) *JAPIA NEWS* 9・10月号

工業会業務レポート

委員会活動

総務部

●業務報告 [8/16 ~ 10/15]

- 8月24日 編集企画会議 JAPIA NEWS特集記事について検討 (部工会)
9月17日 広報部会 平成27年度上半期活動報告 (テピア)

●行事予定 [11/16 ~ 1/15]

- 12月16日 政策委員会・総務委員会と自工会調達委員会との懇談会 (ザ・プリンスさくらタワー東京)
12月18日 理事懇談会 各委員会活動報告他
1月5日 自動車工業団体新春賀詞交歓会 関係4団体による賀詞交歓会 (グランドプリンスホテル新高輪パミール館)

業務部

●業務報告 [8/16 ~ 10/15]

- 8月19日 平成27年度第1回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様 (ウイंकあいち)
8月27日 経営調査部会 講演会 コーポレートガバナンス・コードの概要や企業の対応等に関する講演会を開催した。テーマ：コーポレートガバナンス・コードへの対応実務について 講師：西村あさひ法律事務所 パートナー弁護士 武井 一浩 様 (部品会館)
8月27日 経営調査部会 ・2015年度第1四半期 自動車部品工業の経営動向 (案) について検討を行った。・自動車産業適正取引ガイドラインのフォローアップについて説明を行った。(部品会館)
9月3日 平成27年度第1回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様 (新大阪MTビルディング)
9月4日 平成27年度第1回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様 (広島マツダビル)
9月8日 税制部会 自動車業界の平成28年度税制改正要望活動について検討を行った。(部品会館)
9月11日 総務委員会 ・2015年度第1四半期の自動車部品工業の経営動向について検討を行った。・調達・生産部会関係の活動について報告を行った。(部品会館)
9月15日 中小企業施策委員会 異業種施設見学会 ・DMG森精機株式会社の最新加工技術設備やデモンストラーションを見学した。・加工技術課題や最先端技術情報等のセミナーを実施した。(DMG森精機 東京ソリューションセンター)
9月17日 経営調査部会 講演会 国内外の自動車市場の展望と自動車メーカーの戦略に関する講演会を開催した。テーマ：国内外の自動車市場の展望と自動車メーカーの戦略 講師：大和証券(株)企業調査部 シニアアナリスト 箱守英治 様 (名古屋栄ビル)
9月18日 中小企業施策委員会 異業種施設見学会 ・DMG森精機株式会社の最新加工技術設備やデモンスト

レーションを見学した。・加工技術課題や最先端技術情報等のセミナーを実施した。(DMG森精機 伊賀グローバルソリューションセンター)

- 9月25日 総務委員会 工場見学会 ジェットエンジンのタービン翼などの部品の製造・加工工程を見学した。(IHI相馬工場)
9月28日 平成27年度第1回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様 (部品会館)
9月29日 平成27年度第1回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様 (部品会館)
10月1日 経営調査部会 講演会 国内外の自動車市場の展望と自動車メーカーの戦略に関する講演会を開催した。テーマ：国内外の自動車市場の展望と自動車メーカーの戦略 講師：大和証券(株)企業調査部 シニアアナリスト 箱守英治 様 (機械振興会館)
10月1日 平成27年度第1回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様 (太田商工会議所)
10月2日 平成27年度第1回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様 (ウイंकあいち)
10月6日 人財・労務部会 労務問題の課題について意見交換するとともに、人財・労務部会の活動について意見交換を行った。(部品会館)
10月7日 団体リコール保険制度説明会 会員企業を対象とした団体リコール保険制度の説明会を開催した。(損保ジャパン日本興亜品川支社)
10月9日 団体リコール保険制度説明会 会員企業を対象とした団体リコール保険制度の説明会を開催した。(損保ジャパン日本興亜名古屋ビル)、(損保ジャパン日本興亜大阪ビル)

●行事予定 [11/16 ~ 1/15]

- 11月16日 政策委員会・総務委員会と自動車総連とのトップ懇談会 (芝浦)
11月19日 平成27年度第2回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 (部品会館)
11月20日 平成27年度第2回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 (広島マツダビル)
11月26日 経営調査部会 (部品会館)
11月27日 総務委員会運営幹事会 (部品会館)
11月30日 平成27年度第2回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 (太田商工会議所)
12月1日 補修部品用品委員会・講演会 (部品会館)
12月1日 平成27年度第2回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 (ウイंकあいち)
12月3日 平成27年度第2回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 (部品会館)
12月4日 平成27年度第2回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 (大阪商工会議所)
12月11日 平成27年度第2回「BCP (事業継続計画) 支援セミナー」 (ウイंकあいち)
12月15日 平成27年度第2回「BCP (事業継続計画) 支援セ

ナー」(部品会館)
12月16日 総務委員会(プリンスさくらタワー東京)
12月16日 政策委員会/総務委員会と自工会調達委員会との
懇談会(プリンスさくらタワー東京)

国際部

●業務報告 [8/16～10/15]

8月27日～29日
APEC 自動車ダイアログ・ワークショップ
GVC統合におけるSMEの課題について演題
『Challenges Faced by Japanese Auto Parts SMEs
in Asia』をプレゼン(フィリピン)
9月1日 FTA・通商部会 1) 最近の動向(経済産業省
自動車課) 2) 本年度事業の進捗「Trade
Compass」(IHEPAマトリックス) 進捗状況 関
税分類番号改正への対応について 3) トビックス
AMEICC自動車産業WGおよび関係会合 出張報
告・APEC自動車ダイアログ・ワークショップ
への出席について・天津爆発事故への対応につい
て・中小企業のメキシコ進出支援について 4)
FTA/TPPに関する意見集約(部品会館)

●行事予定 [11/16～1/15]

11月19日 FTA・通商部会 1) 最近の動向 2) 本年度事業
の進捗状況(部品会館)
11月27日 知的財産権部会 1) 知財関連事項の説明(経済産
業省 模倣品対策室、特許庁) 2) 【報告】WGの
活動進捗について 3) 他(部品会館)
12月8日 国際委員会 1) 最近の情勢 2) 本年度事業の進
捗 3) 他(部品会館)

関東支部

●業務報告 [8/16～10/15]

8月19日 メキシコ自動車産業視察ミッション 事前勉強会
(講演会)「メキシコ自動車産業の最新動向と中
期展望」日本貿易振興機構(ジェトロ)海外調査
部 米州課 課長代理 中畑貴雄 様 「ヨロズ メキシ
コ第二拠点立ち上げの苦労話」(株)ヨロズ YPW統
括部 主管 二上幸太郎 様(経団連会館)
9月10日 メキシコ自動車産業視察ミッション 参加者説明会
(部品会館)
9月16日 関東支部経営研究会講演会 「企業不祥事と組織
風土 一最近の不祥事事例から学ぶ教訓」警察大
学校 警察政策研究センター 教授 危機管理シス
テム研究学会理事 / 失敗学会理事 樋口晴彦 様(部
品会館)
9月18日 第2回関東支部企画部会 平成27年度関東支部事
業報告(上期)平成27年度関東支部事業計画(下期)
(三菱電機(株) 姫路製作所)
10月3日～11日
メキシコ自動車産業視察ミッション(メキシコ)

●行事予定 [11/16～1/15]

11月19日 関東支部拡大運営委員会・懇親会(八芳園)
12月3日～4日
第3回関東支部企画部会(NOK(株) 熊本事業場)

中部支部

●業務報告 [8/16～10/15]

8月19日 北米自動車産業視察 結団式 メンバー紹介・視
察旅行詳細説明(名古屋マリオットアソシア)
8月25日 優良企業工場見学会(中小企業部会) ファナック
(株)本社工場(山梨県南都留郡)
8月25～26日

AIAG, コアツール実践2日間セミナー(刈谷市
産業振興センター)

8月27～28日
ISO14001:2008 内部監査員2日間セミナー(刈
谷市産業振興センター)
8月28日 講演会(環境部会)「セルロースナノファイバー
の製造と自動車用途への展開」京都大学 生圏
研究所 教授 矢野浩之氏(名古屋栄ビル)
9月3～4日
ISO9001:2008 内部監査員2日間セミナー(刈
谷市産業振興センター)
9月5～13日
北米自動車産業視察 デトロイト・ケンタッキー・
インディアナポリスの自動車産業視察(米国)
9月15～17日
中小企業大学校瀬戸校研修会「リーダーシッ
プ力養成講座」(中小企業大学校瀬戸校)
9月17日 講演会(本部共催)「国内外の自動車市場の展望
と自動車メーカーの戦略」大和証券 シニアアナ
リスト 箱守英治氏(名古屋栄ビル)
9月25日 講演会(環境部会)「アジアにおける産業廃棄物
の処理事情と土壌規制の動向について」DOWA
エコシステム 小泉信夫氏 他(名古屋栄ビル)
10月14日 局長講演会・懇親会(支部主催)「中部地域の産
業の展望と課題」中部経済産業局 局長 波多野淳
彦氏(名古屋東急ホテル)

●行事予定 [11/16～1/15]

11月13日 講演会(中小企業部会)「和時計から日本のもの
づくりを考える」(仮題) ナルセ時計 社長 成瀬
氏(名古屋栄ビル)
11月27日 環境保全に関する講演会・事例発表会「東芝グ
ループの環境経営」東芝「新しい競争ステージ
に入った世界の自動車産業」フォーイン 事例
発表会(13事例)(名古屋市工業研究所)
12月4日 第2回運営委員会 上期事業・決算報告(名古屋市
内)
12月8日 海外視察報告会 北米自動車産業視察報告会(名
古屋市内)

関西支部

●業務報告 [8/16～10/15]

9月9日 総務分科会 勉強会・工場見学会「海外技能実習
生採用の実績と将来への提言」(株)エクセディ 取
締役会長 清水春生氏(株)エクセディ)
9月16日 品質分科会 勉強会・見学会・トヨタミライ試乗
会((公財)水素エネルギー製品研究試験センター)
10月8日 経営研修会 勉強会・情報交換会「Diversity視
点から見たグローバル/日本における違いと課題」
ボッシュ(株)取締役副社長 森川典子氏(京大和)

●行事予定 [11/16～1/15]

11月24日/12月8日
総務分科会 メンタルヘルスセミナー「社員が“う
つ”で休んだら? ～会社ができる対応とサポー
ト」(株)東芝 産業医 増田つかさ氏 産業医科大学
病院 臨床心理士 松元知美氏(ホテルグランヴィ
ア大阪/ホテルグランヴィア岡山)
12月11日 第3回正副支部長会・第2回運営委員会・情報交換
会・講演会・懇親会「中国」京都大学 大学院 経
済学研究科 教授 塩地洋氏(オリエンタルホテル
広島)
12月16日 補修部品分科会 委員会・講演会
1月8日 平成28年度十団体共催新年賀詞交歓会(ホテル阪
神)

技術関係委員会等の開催状況 (8/16～10/15)

1. 総合技術委員会

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
9月3日	平成27年度 第2回総合技術委員会	自動車部品会館	1) 環境問題への対応について 2) 電子情報化への対応について 3) 基準・認証制度への対応について 4) その他 各委員の情報交換

2. 基準認証部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
8月18日	QRTV-WG	自動車部品会館	1) 国連でのQRTV議論状況について 2) JASIC QRTV採用WG報告（当日午前中会議結果及び前回の内容）について 3) 今後の対応について
8月19日	基準認証部会インドWG	自動車部品会館	1) インドiCAT Dr.Madhusudan Joshi氏によるiCAT説明及び意見・情報交換
8月26日	JAPIA基準認証部会、 JATMAタイヤ基準認証部 会合同会議	自動車部品会館	1) JAPIAの組織概要説明 2) JATMAの組織概要説明 3) JAPIA基準認証部会の活動について、質疑応答 4) JATMA基準認証部会の活動について、質疑応答 5) 法規認証制度に関するトピックス、及び今後の協力方法についての情報交換
9月9日	基準認証部会	自動車部品会館	1) インドWG 活動状況（iCAT説明会報告） 2) 中国WG 活動状況（TC11会議関係等） 3) ASEAN-WG活動状況（アジア官民フォーラムWG等報告） 4) 台湾WG 活動状況（台湾ミッション報告） 5) 各国情報 6) JASIC情報
9月14日	基準認証部会 ASEAN-WG	自動車部品会館	1) JASIC情報について（官民会議WG） 2) タイヤ協会との情報交換結果
	基準認証部会 中国WG	自動車部品会館	1) 車両メーカーの最新情報共有） 2) TC-11会議内容&JAMA中国分科会への質問、要望事項生理 3) JAMA中国分科会への参画、情報収集

3. IT対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
8月18日	DE促進部会幹事会 DE促進部会	自動車部品会館	1) 全体報告について 2) WG報告について 3) 幹事会報告について 4) その他（困り事相談、情報交換等） 5) WG活動
9月25日	DE促進部会幹事会 DE促進部会	自動車部品会館	1) 全体報告について 2) WG報告について 3) 幹事会報告について 4) その他（困り事相談、情報交換等） 5) WG活動

4. 環境対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
8月17日	環境対応委員会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会及び理事会での報告 2) 各部会・分科会の今年度活動状況の報告 3) 事務局情報
8月24日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会報告内容について 2) JAMA製品化学物質管理部会報告 3) 欧州殺生物性製品規則に関する動き 4) AIAGフォーラムでのプレゼン内容

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
8月24日	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1) ガイダンスグループの報告 2) 法規制調査グループの報告 3) GLAPS会議の報告 4) 3月の説明会について
8月26日	製品環境部会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会 報告内容 2) JAMA製品化学物質管理部会 報告 3) JAMA個別物質分科会 報告 4) 欧州殺生物性製品規則に対する動向
9月2日	鉛規制対応分科会幹事会	自動車部品会館	1) ELV 第8回改正について 2) パネルディスカッション討議（7/1開催）の結果レビュー
9月15日	環境保全分科会	自動車部品会館	1) 環境法規制対応ガイダンス、及び補足資料集の改訂について 2) グローバルでの廃棄物、水資源の把握と削減活動について 3) 部工会 第8次「環境自主行動計画」について 4) 日本の新規法規制・動向への対応について 5) 海外の法規情報発信について
9月17日	物質調査システム分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 各種渉外関係 情報共有 2) JAMAシート改正 3) 10/15分科会全体会準備
9月24日	LCA使用段階負荷算出WG	自動車部品会館	1) ガイドライン最新版の紹介、完成と未完成の確認 2) エンジン関連部品使用段階の負荷の考え方 3) DB対象製品の算出定義策定、分担決めと日程計画
9月25日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) JAMA製品化学物質管理部会 報告 2) IMDS新機能について 3) JAMAシート改正説明会について 4) 国際イベント準備について
10月2日	化学物質規制対応分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 各国法規制動向 2) 物質精査活動 3) 自工会情報 4) 欧州情報（ACEA REACH TF等）
10月14日	LCA使用段階負荷算出WG	自動車部品会館	1) 担当製品の計算定義の中間確認 2) エンジン損失配分の考え方、見直し結果 3) タイヤ転がり抵抗の扱い、考え方 4) LCA日本フォーラム表彰応募資料の読み合せ
10月15日	物質調査システム分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 各種渉外関係 情報共有 2) JAMAシート改正 3) 10/15分科会全体会準備 4) 説明会対応について
10月15日	物質調査システム分科会	自動車部品会館	1) JAMAシート 2.32 レビュー結果報告 2) GADSL改正情報解説 3) IMDSリリース10対応解説 4) 物質調査に関わる最新情報紹介 5) 7/1パネルディスカッションアンケートへの回答

5. 品目別部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
8月18日	レストレイント部会PRWG	自動車部品会館	1) 交通安全フェア対応について
8月20日	濾器技術部会	自動車部品会館	1) ISO国際会議対応について (ISO/TC22/SC34/WG1,WG3,WG11及びISO/TC70/SC7) 2) 自技会関連について 3) オイルフィルタJIS関連等
	オイルフィルタJIS小委員会	自動車部品会館	1) 本委員会意見の確認と今後の対応方針について 2) JIS原案の審議
8月26日	警音器部会	自動車部品会館	1) JASIC騒音分科会の報告について 2) 最新のECE-R28の保安基準への反映について
8月27日	ブレーキホース部会	自動車部品会館	1) 中国ミッション報告 2) CCC工場監査スケジュールの見直し 3) CCC最新情報
8月28日	車輪技術部会及びバルブ・ リム合同会議	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2016年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) ホイールの各国部品認証対応について 4) 自技会関連について

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
8月28日	クッション性分科会	自動車部品会館	1) アイ・ディ・エス株式会社 サーマルマネキンプレゼン及びデモ 2) 第18回シート技術研究発表会について
9月3日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) JASO D603 アルミ電線規格、二次案作成審議について 3) 第67回ISO国際会議アクションアイテム対応審議について
9月11日	シート部会	自動車部品会館	1) 第18回シート技術研究発表会開催準備
9月17日	ブレーキホース部会	自動車部品会館	1) CCC工場監査スケジュールの見直し 2) CCC認証最新情報について
9月18日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) JASO D603 アルミ電線規格、二次案作成審議について 3) 第67回ISO国際会議アクションアイテム対応審議について
9月18日	オイルシール技術部会	自動車部品会館	1) JIS-ISO整合化作業について 2) ISO審議状況等 3) 見学会企画について
	車輪技術部会	日比谷 図書文化館	1) ISO対応について 2) 2016年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) 各国部品認証関係 4) 自技会関連について
9月25日	PT熱交換器分科会	自動車部品会館	1) “JIS D 1614ラジエータ放熱性能試験方法の改訂”に関する追加宿題項目（6項目）について
9月29日	摩擦材技術部会	自動車部品会館	1) 自技会ライニング分科会からの情報展開 2) ユーロブレーキからISO会議への流れ 3) ISO国際会議対応について
10月2日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) JASO D603 アルミ電線規格、二次案作成審議について 3) 第67回ISO国際会議アクションアイテム対応審議について
10月5日	濾器技術部会	自動車部品会館	1) ISOサンディエゴ会議対応について (ISO/TC22/SC34/WG1,WG3,WG11及びISO/TC70/SC7) 2) 自技会フィルタ分科会関連について 3) JIS関連について

●行事予定〔11/16～1/15〕

月 日	会合名称など	概 要	場 所
11月20日	DE促進部会幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
//	クッション性分科会		未定
//	PT熱交換器分科会		自動車部品会館
11月26日	化学物質規制対応分科会幹事会		自動車部品会館
//	オイルフィルタJIS原案作成小委員会		自動車部品会館
11月27日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
//	車輪技術部会及びタイヤ・リム合同会議		自動車部品会館
12月3日	電線部会		自動車部品会館
12月3日 ～4日	オイルシール技術部会		兵庫県豊岡市
12月4日	GTB対応会議、ランプ部会		自動車部品会館
12月7日	オイルフィルタJIS原案作成本委員会		自動車部品会館
12月10日	物質調査システム分科会幹事会		自動車部品会館
//	物質調査システム分科会		自動車部品会館
12月16日	基準認証部会		自動車部品会館
12月17日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
12月18日	製品環境部会		自動車部品会館
//	DE促進部会幹事会		広島
//	DE促進部会		広島
12月21日	車輪技術部会		自動車部品会館
1月15日	(仮) 物質調査システム分科会幹事会		自動車部品会館

VWの排ガス不正問題について

JAPIA 北米事務所 河島 哲則

9月18日に米環境保護局（EPA）がフォルクスワーゲンのディーゼルTDIエンジンに関し排ガス制御ソフトウェアを使って排出基準の規制逃れをしていた疑いがあると発表しました。今年前半には販売台数でトヨタを抜いて世界最大の自動車メーカーとなったばかりの同社に起こった史上最大の不祥事はヴィンターコルン社長の引責辞任、その他何人もの重役も停職処分という事態に発展しました。同社の2リッターディーゼルエンジンの排ガス制御ソフトは米国のEPAなどでテストを受ける時だけ排ガス中の有害物質を制御して良い結果を得て、通常の運転では基準値の10倍から40倍の環境汚染物質を大気中に吐き出すように作られていたということです。対象となる車は世界中で1,100万台に上るといい、このスキャンダルが報道された直後には同社の株価は暴落して、ここ米国では当局の捜査に加えて早くも多くの集団訴訟の始まりが語られています。

世界の自動車産業をリードする国のひとつであるだけでなく、世界の環境保護運動をリードする国のひとつでもあり、またディーゼル技術に関しては世界の最先端を行く国であって、何よりも法の遵守について最も厳格であるといわれるドイツを代表するフォルクスワーゲンがどうしてこんな過ちを犯してしまったのでしょうか。この不正な排ガス制御ソフトの存在を発見するきっかけになったのは2013年にウェストバージニア大学に属する研究センターが行ったテスト結果で、そのときも研究員たちはまず自分たちのテスト方法に問題

があったのではないかと考えたそうです。それはまさにドイツという国が持つブランドに対する敬意でした。

あれから1ヶ月過ぎた今も、ドイツの規制当局が国内240万台の対象車についてリコール命令を出したとか、ハリウッドの大スター、レオナルド・ディカプリオが米映画大手パラマウントと組んでこの事件を映画化するだとか、派手な報道が続いています。しかし落ち着いて考えてみれば、いくらVW社の看板だったといっても米国全体のライトビークル（乗用車とライトトラック）にディーゼル車が占める割合は2.6%程度で、ハイブリッドやEVなどの合計2.9%より少ないのです。欧州では半分以上、米国でも15%がディーゼル車のVWにとっては大打撃でも米国のクルマ社会では大きな存在ではありません。

また日本と米国の一部メディアはVWのディーゼル車を信用できなくなった消費者が日本車へ移ると報じていますが、これはクルマを買う人々の「ブランド信奉」を無視した発言です。VWモデルは決して品質・信頼性で上位に評価されているブランドではありませんが、それでもファンは「ドイツ車」に乗ることに喜びを見出すのであって、簡単にその代わりに日本車を買ったりはしません。

VWとドイツがこの問題を克服して再びフォルクスワーゲンというブランド、ドイツという国の威信を少しでも早く取り戻してもらいたいものです。

〈完〉

中部支部 環境部会主催 「麒麟ビール(株)名古屋工場施設見学会 視察報告」

(一社) 日本自動車部品工業会 中部支部

環境部会委員長 田中 真也 (記)

(株)東海理化 施設環境部 施設環境室長

1. 日時

2015年 7月30日 14時30分 ~ 16時30分

2. 訪問先

麒麟ビール株式会社 名古屋工場

3. 面談者

名古屋工場 副工場長 梶山様

4. 参加者

支部会員企業10名 (9社)

5. 訪問のねらい

麒麟ビール(株)は、キリングroup長期環境ビジョンにより、特定した4つの重点領域(水資源、容器包装、生物資源、地球温暖化)に基づき、バリューチェーン全体を通じた資源循環100%社会の実現に向けた取組みを積極的に行っている。同社の環境取組みをご講演いただき、工場及び環境施設を見学させていただくことにより、部工会会員企業各社の環境保全活動に役立てていく。

6. 麒麟ビール(株)名古屋工場の概要について

麒麟ホールディングスのグループ会社である麒麟ビール(株)は、東京都中野区に本社を置き、「一番搾り」「淡麗」「のどごし」等の酒類を主力製品として、飲料事業を展開している。

キリングroup長期環境ビジョンとして、“豊かな地球のめぐみを将来にわたって享受し引き継ぎたいという想いを、バリューチェーン全体に係わるすべての人々と共につないでいきます。”を掲げている。

今回見学に伺った名古屋工場は清須市に位置しており、大消費地である中部圏の生産拠点として主力製品を高生産性で安定的に供給する「主力工場」の機能を持つ。

7. 視察のスケジュール

(1) 会社概要説明

(2) 環境負荷低減取組みのプレゼンテーション

(3) 工場及び環境施設・取組みの見学

8. 麒麟ビール(株)の環境負荷低減活動について

麒麟ビールでは、容器と包装の軽量化等による3R活動をはじめ、自然エネルギー利用、廃棄物の再資源化等にも積極的に取組み、エネルギー消費及び輸送に伴うCO₂排出の削減を図っている。

(1) 容器3R活動

1) びんの軽量化

薄肉化したビールびんの外表面にセラミックコーティングを施すことでビールびんの強度を確保。従来の大びんよりも約21%軽量化でき、1ケースあたり2.6kgの軽量化を実現している。これは、びんの資源・製造エネルギーの節約、輸送効率の向上につながっている。今後はこの技術の中びんにも応用し、全国展開する予定。

2) アルミ缶の軽量化

アルミ缶の原料となるボーキサイトは99%が輸入に依存。缶の軽量化は環境負荷低減の重要なテーマと位置付けており、上蓋の小口径化と胴部の薄肉化より、初代モデルのアルミ缶と比べて約29%の軽量化を実現している。

3) PETボトルの軽量化

軽く・薄く・簡単につぶせる「ペコロジーボトル」を更に軽量化した「NEWペコロジーボトル」を開発、従来に比べ約45%の軽量化を実現している。また、PETボトルラベルの薄肉化にも取り組んでおり、麒麟メッツコーラ480mlには業界最薄の20μmラベルを採用している。

4) ワイン用PETボトルの採用

DLCコーティング技術等により酸素の透過率を下げたワインの品質を保持する「ワインのためのペットボトル」を導入し、容器を軽量化。びんと比べて容器製造時や輸送時のCO₂排出量を削減している。

5) 段ボールカーターの軽量化



段ボールカーターの四隅を切り落としたコーナーカットカーターを採用。1カートンあたり約11%の軽量化を実現しており、資源の節約と併せて、取扱いやすさの向上にもつながっている。

(2) その他取組み

1) 蒸気の循環利用

ビール仕込みの麦汁煮沸工程で発生する蒸気を回収して、洗浄・圧縮し、煮沸工程で再利用するシステムを導入しており、使用蒸気量を大幅に低減している。

2) 自然エネルギーの利用

見学ルートにおいて、電動カーテンの開閉用の電力を太陽光発電で賄い、自然エネルギーの積極的な利用に取り組んでいる。

3) 廃棄物の再資源化

工場から排出される廃棄物の再資源化に取り組んでおり、ビール粕は飼料・肥料原料へ、排水余剰



汚泥は肥料・セメント原料へなど、名古屋工場から排出される廃棄物は、全て再資源化されている。

9. 所感

今回は、異業種となる飲料メーカーの中でもトップランナー企業であるキリンビール(株)の環境取組みを視察することができ、「やさしいパッケージ」のための取組みやビールづくりについて、見て触れて学ぶことができ、とても有意義であった。昨年、環境報告書大賞を受賞している企業ということもあり、環境取組みが盛んであると同時に、各事例がとても分かりやすく説明されていたのが印象的であった。工場見学についても見学者を惹きつける工夫が随所に見られ、「見せ方」について勉強になる点も多かった。

最後に、今回の視察にご対応いただいた梶山副工場長様をはじめ、多くの関係者の皆さまには、この場を借りて感謝申し上げます。



中部支部 中小企業部会主催 「ファナック(株)本社工場 視察報告」

一般社団法人 日本自動車部品工業会中部支部

中小企業部会 部会長 望月 貴史 (記)

(光精工株式会社 執行役員)

1. 日時

2015年8月25日 (火) 13:30～16:00

2. 訪問先

ファナック株式会社 本社工場 (山梨県忍野村)

3. 参加者

日本自動車部品工業会 中部支部 中小企業部会

会員企業10社23名

4. 視察内容

本社工場見学 (5ヶ所)

5. 視察目的

工作機械用NC装置では世界No.1のシェアを誇り、品質保証にも定評があるファナックの「ものづくり」に対する考え方、ロボットの活用等を現場視察を通じ学び、今後の会員企業のものづくり改善等に役立てることを目的とする。

6. 会社概要

設立 1972年5月

年商 7,297億円 (2014年度 連結ベース)

7. 事業内容

ファナックを支える事業部は下記の3事業本部であり、いずれの事業本部長も会社トップが兼務している。

①FA事業本部 (本部長は社長)

NCハード・ソフト、サーボモータ等基幹商品の研究開発・生産

②ロボマシン事業本部 (本部長は副社長)

切削加工機、射出成形機等のロボマシン商品の研究開発・生産

③ロボット事業本部 (本部長は専務)

多関節ロボットやゲンコツロボット等の研究開発・生産

8. ファナックの3つのキーワード

(1) 「one FANUC」

FA・ロボット・ロボドリルの3事業およびサービスが一体となり、全世界の製造現場に革新と安心を届ける。現在、累計生産がCNCは360万台、サーボモータは1,570万台を突破し、ロボット生産も累計38万台となり、ワールドワイドに製品・サービスを「one FANUC」として提供していく。

(2) 「壊れない、壊れる前に知らせる、壊れてもすぐ直せる」

ファナックでは、「ZDT (Zero Down Time)」を合言葉に、機械がダウンしている時間をゼロにし、世界中の製造現場の稼働率向上を目指している。

(3) 「サービス ファースト (Service First)」

生涯保証・保守を実践し、世界46ヶ国、240以上のサービス拠点で、顧客が使用するファナック商品の生涯サポートを行う。

9. 工場見学

(1) 展示ルーム

ロボット・サーボモータ・ロボマシン各種の展示商品のデモと説明を受けた。

印象に残るのは、操作を幾度となく繰り返すなかで、動作スピードが増し生産性を上げる「学習ロボット」、目にも見えぬ速さでワークを右から左、上から下へ同じ向きに移動させる「ゲンコツ・ロボット」や「バリ取りロボット」「積荷ロボット」などであり、すぐにでも製造現場で使いたいロボットが数多く展示されていた。また、全て黄色に塗られた機械の中で、唯一緑色のロボットが目についた。それは、少しでも機械に触れたら動作が停止する安全ロボットであり、またセンサーが付いた安全柵など安全重視の商品も展示されていた。

(2) 板金工場

ロボットのコントローラのキャビネットを高度にロボット化された設備により製造。

金曜日夜から月曜日朝の間に自動で板金を取り出して積み増す装置、レーザーパンチプレス、溶接加工、自動塗装工程などが印象的であった。

(3) 修理工場

30年前の製品も新品同様に修理してしまう修理工場。かつてNCの主流であったテープリーダーも修理してしまい、古いサーボアンプは互換性部品で対応できるように設計自体を変えてしまう。2014年度の修理実績は86,000台強。うち4%は30年以上前の製品、内外比率は国内83%、海外17%とのことである。

この修理工場を建てた経緯は、修理ノウハウを次世代にどう伝えるかの発想から来ている。現在は、部品リストの修理ノウハウをデータベース化、12,000件のノウハウをデータ管理し、85名の社員で修理に取り組んでいる。まさに生涯保守の精神を貫いていると言える。

(4) 切削工場、モータ工場

切削工場は1980年に建てられ、本社工場内では最も歴史のある建物。玄関ロビーにはつくば万博に出展された「FANUC MAN」という巨大な黄色のロボットが展示されていた。この工場は土日も含め長時間の無人運転を行っている。

モータ工場は、最も大きな建物であり、ファナックの技術を結集した最新ロボットが組立作業から梱包までを行っている。知能ロボットセルが視覚機能を持ち、正確なワークの組み付けを可能にしている。月間125,000台のサーボモータを製造し、

ロット生産ではなく、原則受注生産で物流も自動搬送で行っているのが特徴である。

10. 所感

富士山麓に広がる山中湖畔の樹海の中、広さ49万坪の敷地に22の工場建屋を所有し、工場群のある森を貫く道路は「ファナック通り」という名称。豊富な木々の緑に包まれた中にコーポレートカラーと言える黄色の建物や車が点在している様子はまさに業界のリーディングカンパニーの本拠地であることを物語っている。

冒頭、ロボット事業本部長の稲葉専務より挨拶があり、「one FUNAC」と生涯保証について説明があった。また、今回参加された会員企業の多くがファナック製NCやロボット等を導入している為、活発な質疑が行われた。

NC業界の世界No.1企業ではあるが、奢った姿勢は一切なく、あくまでもお客様のために生涯保証・保全を貫くというスタンスが全世界のお客様にファナック製品が愛される理由の一つであると確信できた。また、学習機能を併せ持ち、加速度を上げサイクルタイムを短縮するロボットなど、我々会員企業でも今後大いに活用できる商品を確認でき、たいへん有意義な工場視察であった。

最後に、ご多忙のなかご対応いただき、親切かつ多くの質問に快く答えていただいた鳥居執行役員様をはじめファナックの皆様には、この場を借りて感謝申し上げます。

ありがとうございました。



行政・団体

8月.....

■中小企業庁、地方の中小企業 人材獲得支援 (28日)

中小企業庁は9月から、中小企業・小規模事業者の人材確保に向けた支援策を展開する。

■国交省次官、ETC車載器義務付け見送り 利便性向上が先決 (31日)

国土交通省の徳山日出男新次官はこのほど日刊自動車新聞などの会見に応じ、ETC車載器の義務付けを見送る考えを明らかにした。

9月.....

■経産省、来年度の水素ステーション整備は20カ所程度 (3日)

経済産業省は来年度、水素ステーション(ST)の新規整備計画を20カ所程度に絞り込む方針だ。

■自動車税制変更「3年に1度」経産省が方針、駆け込みなど混乱避ける (4日)

経済産業省は、エコカー減税など自動車税制の変更を3年に1度とするよう求める方針だ。

■環境省、概算要求 引き続きFCV普及支援 (4日)

環境省は2016年度概算要求案として、一般会計とエネルギー対策特別会計の合計額で前年度比44%増の3814億円を計上する。

■文部科学省、次世代基盤技術の研究強化へ概算要求に100億円 (7日)

文部科学省はIoT(モノのインターネット化)やビッグデータ、人工知能(AI)といった次世代基盤技術の研究開発に乗り出す。

■経産省、ポスト「リチウムイオン電池」開発 (8日)

経済産業省はポスト「リチウムイオン電池」の開発を強化する。

■トヨタなど水素技術実証事業参画 (9日)

トヨタ自動車や神奈川県などは、環境省の委託事業「平成27年度地域連携・低炭素水素技術実証事業」におけるプロジェクトに共同で取り組む。

■国交省、次世代型議論に関心 関連市場に影響も (10日)

国土交通省が進める次世代型運行記録計(タコグラフ)の議論が業界の関心を集めている。

■経産省、充電網整備練り直し (16日)

経済産業省は、電気自動車(EV)などの充電網整備計画を練り直す。

■経産省、省エネ補助金3倍に (17日)

経済産業省は来年度、産業部門の省エネ支援策を強化する。

■経産省、産業構造審議会、2030年ビジョン策定 (18日)

経済産業省は、IoT(モノのネット化)やビッグデータ、人工知能(AI)の普及を見込んだ2030年時の産業構造を示す「新産業構造ビジョン」の策定に着手した。

■国交省、VW排ガス対策不正 状況注視の段階 (25日)

独フォルクスワーゲン(VW)が排ガス規制を不正に逃れていた問題で、国土交通省は、対象車が日本に正規輸入されていないこと

クローズアップ

ボッシュ、ブランド認知向上狙い 本社にカフェ開設 (9月10日)



ボッシュ カフェ

ボッシュ(ウド・ヴォルツ社長、東京都渋谷区)は、本社1階に10日開業する一般向け飲食施設「カフェ 1886 アット ボッシュ」の報道関係者向け内覧会を開催。渋谷駅から徒歩5分の好立地を生かし、気軽に利用できるカフェスタイルで日本でのブランド認知向上を図る。一般への企業ブランドの浸透を図ることにより、自動運転分野など将来の新規事業の展開につなげる。

もあり、「米国の状況を注視している段階」(自動車局審査・リコール課)としている。

■内閣府が自動運転技術開発説明会、協調部分の議論固まる (25日)

内閣府は、国家プロジェクトとして進める自動運転技術開発の説明会をこのほど開き、開発の進ちょくや国際動向などを説明した。

■経産省と公正取引委員会、11月に「下請取引適正化推進月間」 (26日)

経済産業省と公正取引委員会は11月に「下請取引適正化推進月間」を展開する。

■ダイムラー／BMW、排ガス不正対策の指摘受け「断固否定」 (29日)

独フォルクスワーゲン(VW)が、ディーゼルエンジン(DE)車の排ガス規制を不正に逃れていた問題で、他の自動車メーカーや市場にも影響が出てきた。

■国交省、VWの排ガス対策不正受け日本でも審査制度見直し検討 (30日)

太田昭宏国交相は、独フォルクスワーゲン(VW)の排ガス不正問題に関連して国内の審査制度を見直す方針を明らかにした。

■中小企業庁、海外との提携後押し 推進室を設置、マッチングや金融支援 (30日)

中小企業庁は、中小企業の海外提携を後押しする制度を新たに整える。

10月.....

■〈VW 排ガス不正〉太田国交相、DE車各社の対応精査 (3日)

太田昭宏国交相は、独フォルクスワーゲン(VW)の排ガス不正に関連し「VW社では、各国の行政機関に対して今月中に報告し、

NOK
www.nok.co.jp

Always, Everywhere

NOK株式会社
〒105-8585 東京都港区芝大門1丁目12番15号

ユーザーに対しては数週間から数カ月以内に情報提供するとしている」と述べるとともに、同日までにディーゼル乗用車を扱う9社に報告を求めていることにも触れ「各社の対応をよく精査していきたい」と語った。

■自動車業界、TPPで国際戦略の加速期待（6日）

TPPの発効により、日本の自動車業界でASEAN（東南アジア諸国連合）の一部と日米、中南米を視野に入れた国際事業戦略が加速しそうだ。

■国交省、排ガス浄化性能 使用過程車 抜き打ち調査（7日）

国土交通省は、使用過程車の排ガス浄化性能を調べる「サーベイランス（車両抜き取り試験）制度」を実施する方針を明らかにした。独フォルクスワーゲン（VW）が月内にも同省に報告する内容を踏まえ、まずはディーゼル乗用車を対象に実施。

■TPP大筋合意、自動車業界、競争力向上に期待（10日）

環太平洋経済連携協定（TPP）の大筋合意で、参加12カ国間の関税引き下げにメドがついた。

■経産省、次世代レーザー技術の開発支援（15日）

経済産業省は、次世代レーザー技術の開発支援に乗り出す。

■新放送サービス「i-dio」、アマネクがクルマ向けチャンネル開設（17日）

地上アナログテレビ放送終了後に空いた周波数帯を利用して創設される新しい放送サービスV-Lowマルチメディア放送「i-dio（アイディオ）」が2016年3月に東京、大阪、福岡から放送開始されるのに伴い、日本初のモビリティ向け専用デジタルラジオチャンネルが開設される。アマネク・テレマティクスデザイン（今井武社長、東京都千代田区）が実質的な放送局となるコンテンツ・プロバイダーとして参画する。

■自工会、消費税10%試算 経済損失6兆円（17日）

自動車税制改正の前哨戦が始まった。自工会は、消費税10%への引き上げが新車販売を約67万台引き下げ、約6兆円の経済損失と約26万人分の雇用が失われると試算し、税負担を欧米並みに引き下げのための議論を早急に始めるよう政府に求めた。

■タカタ製エアバッグのリコール進ちょく状況（19日）

国土交通省は、タカタ製エアバッグのリコール（回収・無償修理）進ちょく状況を公表。

■TPP大筋合意結果公表 自動車部品87%の関税即時撤廃（21日）

経済産業省は、環太平洋経済連携協定（TPP）の工業製品における関税の大筋合意結果を公表した。

■グリス原因で相次ぎ発火事故 リコール、3社で300万台超（22日）

スイッチに塗布するグリスが原因の発火事故が相次いでいる。

■国交省、VW問題受け排ガス検査見直しへ（24日）

国土交通省は、独フォルクスワーゲン（VW）社の排ガス不正問題を受け、新型車や使用過程車の検査を見直す検討会を開くと発表した。

国 内

8月.....

■日産、新興国で現地調達率上げ アライアンスを活用（31日）

日産自動車は、新興国にある生産拠点で現地調達率の引き上げに乗り出す。

9月.....

■パイオニア、スマホと車載ビーコン端末活用し最適なタイミングで情報提供が可能に（1日）

パイオニアは、自動車業界で初めてスマートフォン（スマホ）と自動車向けビーコン端末を活用したテレマティクスソリューション「クルマDEビーコン サービスプラットホーム」を開発した。

■ダイハツ工業、サプライヤー支援を倍増、生産技術や品質管理など円滑な量産立ち上げへ（2日）

ダイハツ工業は設計から量産立ち上げまでのサプライヤー支援を行う人員を20人増員し、昨年度に比べ倍増した。

■デンソーが初の7年物無担保普通社債、発行額100億円（3日）

デンソーは、同社として初となる償還期間を従来より2年延ばした7年物の無担保普通社債を発行する。

■スズキとサプライヤー、環境・安全技術に関わる中期的コスト目標を共有（4日）

スズキはサプライヤーと共同で、燃費や安全に関わる最新技術の

普及見通しを踏まえた中期的なコストのつくり込みに取り組む。

■ホンダ、エアバッグ不具合リコール 選定漏れで追加（5日）

ホンダは、「ストリーム」のエアバッグ装置のインフレーターに不具合があったとして追加リコール（回収・無償修理）を国土交通省に届け出た。

■いすゞ自動車、アジア生産拠点で部品現地調達率引上げ（8日）

いすゞ自動車は、海外生産拠点で部品の現地調達率を引き上げる。

■いすゞ、サプライヤーの原価低減支援 今年度から本格的に復活（10日）

いすゞ自動車は、サプライヤーの原価低減を支援する活動を今年度から本格的に復活する。

■トヨタ、再雇用の待遇改善 向上熟練者が対象（11日）

トヨタ自動車は、定年後に再雇用した工場勤務の技能系社員の待遇を改善する方針を決めた。

■東洋ゴム、価格カルテルで自動車メーカーへ和解金（15日）

東洋ゴム工業は、自動車用防振ゴムの米国での独占禁止法違反に関して、自動車メーカーに和解金42億900万円を支払うことで合意したと発表した。

■曙ブレーキ、次世代型ブレーキキャリパーは設計標準化 18年度までに開発（17日）

曙ブレーキ工業は、2018年度までに設計を標準化した次世代ブレーキキャリパーを開発する。

■VWの排ガス対策不正、業界全体に影響波及 欧当局、他メーカーも調査（25日）

独フォルクスワーゲン（VW）がディーゼル車の排ガス試験で不正をしていた問題が業界全体に波及している。

■ローム、次世代車載通信規格のIC開発（30日）

ロームは、次世代車載通信規格「CXPi」に準拠した汎用トランシーバー（送受信機）IC「BD41000FJ-C」を開発した。

10月.....

■ホンダ、航続700km超のFCV セダン型は世界初（1日）

ホンダは、2015年度に市販する予定の量産型燃料電池車「FCV」（仮称）を世界初公開する。

■トヨタ、アイシンとMT事業集約で追加合意（1日）

トヨタ自動車は、アイシン精機と同社の子会社アイシン・エーアイ（AI）の3社でマニユアルトランスミッション（MT）事業集約に関し追加合意した。

■GYと住友ゴム、提携と解消（3日）

米グッドイヤータイヤ&ラバーカンパニー（GY）と住友ゴム工業は1日（日本時間2日）、グローバル・アライアンス契約を解消したと発表。

■東レ、イタリア企業買収 炭素繊維事業を拡大（5日）

東レは炭素繊維ブリプレグ（中間基材）事業の拡大を目的に、イタリア企業を買収すると発表した。

■富士重、米サプライヤー支援強化 日本の購買部門と連携 人材派遣も視野に（8日）

富士重工業は、米国工場の生産能力増強を当初の計画より4年間前倒しするのに対応して、米国で部品を調達するサプライヤーの支援体制の強化に乗り出す。

■シーテックジャパン2015開幕、自動運転や電動化など各社が最先端技術を紹介（8日）

最先端のIT・エレクトロニクス技術の総合展示会「CEATEC（シーテック）ジャパン2015」が7日から10までの4日間の日程で始まった。

■京セラ、排ガス用センサーに本格参入 20年度に売上高100億円（9日）

京セラは排ガス用センサーの市場に本格参入する。

■国交省自動車局長、VW排出ガス不正 まずは国内の実態把握（10日）

独フォルクスワーゲン（VW）社の不正排ガスソフト問題に関し、国土交通省の藤井直樹自動車局長は、法的対応について「今後の課題だ」と述べ、国内での実態把握を済ませてから検討する考えをこのほど明らかにした。

■東洋ゴム工業、一般産業用防振ゴムでも不正 自動車用は「適切」（16日）

東洋ゴム工業は、子会社の東洋ゴム化工品で製造している船舶用

日刊自ダイジェスト

と鉄道車両用、その他産業用の防振ゴム部品で、不正行為があったと発表。

■ホンダ社長、GMとの提携拡大 海外生産モデルの国内移管を加速 (17日)

ホンダの八郷隆弘社長は、日刊自動車新聞社のインタビューに応じ、米国ゼネラル・モーターズ (GM) との提携関係を拡大する意向を示した。

■シャープ、曲面ディスプレイ量産へ 18年度以降新車採用めざす (19日)

シャープは2018年にも、デザイン自由度や操作性を高めた新開発の液晶ディスプレイの量産を始める。

■シンコーシステム、自動車産業向け滑り止め塗料拡販 (19日)

防滑塗料の施工・販売を行うシンコーシステム(山口実代表取締役、茨城県石岡市)は、自動車産業向けの滑り止め塗料の拡販に注力する。

■東レ、鮮やかな色合いと高耐久性 新人工皮革をトヨタに納車 (20日)

東レは、スエード調人工皮革「ウルトラスエード」の鮮やかな色合いと高耐久性を両立した新製品を開発し、トヨタ自動車のカスタマイズ仕様車に採用された。

■ユニバース、早期退職制度に162人が応募 (22日)

ユニバースは、早期退職制度の応募者が162人になった。

■東海理化、4～9月期に145億円の特損計上 (23日)

東海理化は、パワーウィンドスイッチの不具合による市場措置の対策費用として2015年4～9月期に145億円の特別損失を計上する。

■三菱電機、車の動き図形化し投影 路面ライティング発表 (24日)

三菱電機は、光で車の動きや運転手の意思を伝える「路面ライティング」のコンセプトを発表。

海外

8月.....

9月.....

■日産タイ工場、サプライヤーパーク新設 (7日)

日産自動車はタイ工場のコスト競争力を強化するため、2014年7月に稼働したタイ第2工場の近隣にサプライヤーパークの新設を検討する。

■独コンチネンタル、欧州メーカーに次世代ブレーキ初供給 16年初頭から量産 (7日)

独コンチネンタルは、ブレーキマスターシリンダーとABSやESCを一体化した次世代電子制御ブレーキシステム「MKC1」を欧州自

動車メーカーから初めて受注した。

■日立オートモティブシステムズ、メキシコの現地法人2社を統合 (15日)

日立オートモティブシステムズ (日立AMS) は、メキシコ現地法人2社を10月1日付で統合すると発表した。

■米ニュアンス・コミュニケーションズ、ベンツに音声認識・解析技術提供 (19日)

米ニュアンス・コミュニケーションズは、コネクテッドカー・プラットフォーム「Dragon Drive」(ドラゴンドライブ)が、メルセデス・ベンツのコネクテッド型音声インターフェースに採用された。

10月.....

市場

8月.....

9月.....

10月.....

■4～9月の新車販売台数、3年連続前年割れ (2日)

自販連と全軽自協が発表した2015年度上期 (4～9月) の新車販売台数は、前年同期比5.8%減の232万9270台だった。上

■14年工業統計、製造品出荷額3年連続増 自動車関連が好調 (2日)

経済産業省が公表した2014年の工業統計調査の速報値によると、「製造品出荷額等」は前年比4.0%増の296兆6015億円と3年連続の増加となった。

■輸入車登録9.7%増 シェアが過去最高 (7日)

JAIAが発表した2015年度上期 (4～9月) の外国メーカー車の輸入車新規登録台数は、前年同期比9.7%増の13万6897台だった。

■上期新車販売、アクア2年ぶり首位 軽はN-BOX (7日)

自販連と全軽自協は、2015年度上期 (4～9月) の車名別新車販売ランキングを発表した。

■乗用車各社4～9月、米で全社がプラス (16)

日本の乗用車メーカーによる2015年4～9月の日本、米国、中国における販売台数がまとまった。

■上期工作機械受注額、4半期ぶりマイナス アジア中心に減少 (21日)

日本工作機械工業会が発表した2015年4～9月の工作機械受注額 (確報) は、内需と外需を合わせた総額が前年同期比0.7%減の7559億円となり、半期ベースで4半期ぶりに減少した。

■メーカー別3月末保有、ダイハツ 4位に浮上 (23日)

2015年3月末時点のメーカー別国内保有台数は、軽自動車、輸入車、大型車の販売好調を反映した形になった。

記者の目

真のサステナビリティとは何か

フォルクスワーゲングループのディーゼル車・排ガス不正問題による余波が拡大している。欧州での既販売車両のリコール対象は850万台で、そのうち排気量1600ccの約300万台についてはハードウェアの交換が必要になる。同グループでは、問題が明るみになった当初は対策費用として65億ユーロ (約8700億円) の引当金を予定していたが、販売へのマイナス影響によって、300億ユーロ (約4兆円) 以上に膨らむ可能性が高い。欧州以外でもオーナーの集団訴訟が始まるなど、グローバルに飛び火している。

欧米では1980年代に、エコなイメージを流布する

行為を揶揄 (やゆ) した「グリーンウォッシング」という表現が生まれたが、このグリーンウォッシングが企業にとって、いかに危険であるのかを認識せざるを得ない。最近は「サステナビリティ」(持続可能性) を重視する部品メーカーも増えているが、欧州内装材メーカーのトップは「サステナビリティとコスト削減を結びつけてしまう間違った企業が多い」と警鐘を鳴らす。信頼性に優れた製品の開発や環境保全に向けたコストを惜しまず、「グリーンウォッシュ企業」にならないことが、真に継続するためには大切なのだという。(T)



このダイジェストは8月26日～10月24日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連の記事を抜粋。詳しくは日刊自動車新聞電子版・<http://www.netdenjd.com/> (有料・月額3,500円) で読めます。

指標・統計

■自動車の生産・販売・輸出（自工会調）

1. 四輪車の生産実績

（単位：台）

	2015. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	683,472	93.9	3,910,535	90.5	707,911	93.5	4,618,446	91.0
普 通 車	425,901	105.4	2,311,780	97.6	445,444	102.1	2,757,224	98.3
小 型 四 輪 車	132,849	84.8	762,726	81.2	142,896	88.9	905,622	82.3
軽 四 輪 車	124,722	74.8	836,029	82.6	119,571	74.5	955,600	81.5
ト ラ ッ ク	115,613	98.3	670,177	98.9	121,217	98.3	791,394	98.8
バ ス	12,907	105.8	70,256	102.3	12,800	91.0	83,056	100.4
合 計	811,992	94.7	4,650,968	91.8	841,928	94.1	5,492,896	92.1

2. 四輪車の国内販売実績

（単位：台）

	2015. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	364,930	96.2	2,251,751	87.7	355,892	90.9	2,607,643	88.2
普 通 車	116,960	105.9	696,390	89.3	119,467	101.3	815,857	90.9
小 型 四 輪 車	122,622	103.4	707,803	91.4	126,213	95.0	834,016	91.9
軽 四 輪 車	125,348	83.5	847,558	83.8	110,212	78.3	957,770	83.1
ト ラ ッ ク	76,745	105.8	418,071	96.5	68,141	100.4	486,212	97.0
バ ス	956	119.9	6,811	112.1	1,060	103.3	7,871	110.8
合 計	442,631	97.8	2,676,633	89.0	425,093	92.4	3,101,726	89.5

3. 四輪車の輸出実績

（単位：台）

	2015. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	349,184	102.7	1,865,703	99.8	363,383	102.3	2,229,086	100.2
普 通 車	334,200	105.7	1,778,474	102.2	342,751	103.2	2,121,225	102.4
小 型 四 輪 車	14,659	62.1	84,863	65.9	20,032	87.4	104,895	69.1
軽 四 輪 車	325	833.3	2,366	162.8	600	740.7	2,966	193.4
ト ラ ッ ク	40,836	100.4	241,524	104.4	39,801	91.9	281,325	102.4
バ ス	13,710	132.7	70,410	105.3	12,551	80.0	82,961	100.5
合 計	403,730	103.3	2,177,637	100.5	415,735	100.4	2,593,372	100.4

■自動車部品の生産・輸出・輸入

1. 自動車部品の生産（経済産業省「生産動態統計」）

（単位：百万円）

		2015. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
総括	自動車部品 41品目	547,684	100.3	3,127,494	97.5	571,215	96.7	3,698,709	97.4
	関連自動車部品 9品目	109,034	104.2	637,527	99.1	120,404	105.0	757,931	100.0
	内燃機関電装品 5品目	35,438	99.1	201,599	98.6	36,850	97.4	238,449	98.4
	二輪車部品 4品目	5,666	108.5	34,920	101.2	6,343	106.0	41,263	101.9
	合 計	697,822	100.9	4,001,540	97.9	734,812	98.1	4,736,352	97.9

指標・統計

			2015. 6月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2015. 7月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
自動車部品 (41品目)	1	ピストン	3,618	103.0	20,275	97.5	3,816	97.6	24,091	97.5
	2	ピストンリング	3,715	100.2	20,788	102.2	3,699	96.8	24,487	101.3
	3	シリンダーライナ	1,808	99.2	10,135	92.6	1,745	89.3	11,880	92.1
	4	吸気弁及び排気弁	3,398	96.0	19,368	92.3	3,550	93.5	22,918	92.5
	5	ガスケット	2,457	96.7	14,302	95.8	2,524	92.8	16,826	95.3
	6	燃料ポンプ	1,734	94.1	10,425	87.9	1,683	82.3	12,108	87.0
	7	空気清浄器	2,233	105.7	13,162	109.3	2,286	103.4	15,448	108.4
	8	油清浄器	1,880	100.3	10,854	94.9	1,945	95.0	12,799	94.9
	9	油ポンプ	2,216	90.0	13,801	95.5	2,290	88.7	16,091	94.4
	10	水ポンプ	2,368	99.3	14,104	100.8	2,520	99.6	16,624	100.6
	11	ラジエータ	15,520	89.3	91,166	85.4	15,745	84.2	106,911	85.2
	12	クラッチ装置	6,831	128.1	33,335	105.2	7,003	118.4	40,338	107.3
	13	自動変速装置	184,379	99.2	1,055,473	99.3	192,863	94.9	1,248,336	98.6
	14	ユニバーサルジョイント	3,355	87.8	19,545	90.3	3,340	82.1	22,885	89.0
	15	プロペラシャフト	4,573	108.9	26,890	94.6	4,916	97.6	31,806	95.0
	16	車輪	8,568	106.8	47,744	99.0	9,029	104.7	56,773	99.8
	17	かじ取りハンドル	3,077	78.2	21,975	86.0	3,262	80.1	25,237	85.2
	18	ショックアブソーバ	36,224	307.7	88,795	136.9	11,202	90.7	99,997	129.5
	19	ブレーキ倍力装置	10,932	357.7	22,704	127.8	2,875	89.5	25,579	122.0
	20	ブレーキシリンダ	2,714	40.8	20,864	52.9	3,888	55.6	24,752	53.3
	21	ブレーキパイプ	3,792	142.7	18,105	111.8	2,965	101.2	21,070	110.2
	22	ブレーキシュー	2,892	99.0	16,155	94.0	3,101	95.2	19,256	94.2
	23	燃料タンク	2,833	38.1	37,421	84.9	7,459	93.7	44,880	86.2
	24	排気管及び消音器	7,268	26.5	138,366	85.2	29,675	99.5	168,041	87.4
	25	窓わく	29,092	1088.4	42,212	256.5	3,300	111.1	45,512	234.2
	26	ドアヒンジ・ハンドル・ロック	3,056	38.3	38,218	77.4	7,225	85.0	45,443	78.5
	27	窓ガラス開閉装置	6,971	141.6	28,625	103.5	5,092	93.3	33,717	101.8
	28	シート	4,904	7.4	344,055	85.8	77,848	108.9	421,903	89.3
	29	スイッチ類	73,435	541.9	140,561	169.7	14,316	95.2	154,877	158.2
	30	計器類	13,481	116.4	65,910	98.8	12,537	99.8	78,447	99.0
	31	窓ふき	12,010	163.7	46,683	104.7	7,565	95.5	54,248	103.3
	32	警音器	7,246	522.4	13,935	173.8	1,465	95.6	15,400	161.2
	33	暖房装置	1,409	17.1	42,544	80.3	9,091	100.4	51,635	83.2
	34	電子式ブレーキ制御装置	9,045	55.8	83,401	88.8	17,459	103.7	100,860	91.1
	35	シートベルト	16,495	212.2	53,072	109.4	7,593	93.2	60,665	107.1
	36	エアバッグモジュール	7,430	103.2	41,811	98.4	7,021	85.6	48,832	96.3
	37	気化器・燃料噴射装置	6,167	29.4	114,323	91.9	22,797	102.1	137,120	93.4
	38	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	22,434	59.7	194,243	90.5	37,795	95.2	232,038	91.2
	39	軸受メタル	4,055	99.9	23,296	93.5	4,153	97.8	27,449	94.1
	40	ブッシュ	3,005	102.2	16,878	106.4	3,120	99.3	19,998	105.2
	41	オイルシール	9,064	97.7	51,975	98.0	9,457	95.2	61,432	97.5
		合 計	547,684	100.3	3,127,494	97.5	571,215	96.7	3,698,709	97.4
関連自動車 部品 (9品目)	1	自動車用蓄電池	9,178	106.5	50,612	102.0	9,705	104.2	60,317	102.4
	2	かさね板ばね	2,490	107.1	14,299	105.0	2,651	102.2	16,950	104.5
	3	つるまきばね	1,781	88.3	10,241	84.6	1,923	87.5	12,164	85.1
	4	線ばね	4,853	97.2	28,081	97.4	5,177	95.0	33,258	97.0
	5	カークーラー	25,953	101.5	147,720	97.9	27,405	98.0	175,125	97.9
	6	自動車用器具	30,076	105.8	187,215	103.9	34,980	112.7	222,195	105.2
	7	自動車用電球	970	96.5	5,553	94.5	1,036	99.3	6,589	95.2
	8	カーオーディオ	4,605	132.6	21,625	104.9	5,851	145.0	27,476	111.5
	9	カーナビゲーションシステム	29,128	103.4	172,181	94.8	31,676	102.2	203,857	95.8
		合 計	109,034	104.2	637,527	99.1	120,404	105.0	757,931	100.0

			2015. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
内燃機関電 装品 (5品目)	1	ダイナモ	7,409	102.0	40,567	95.0	7,947	97.8	48,514	95.4
	2	スタータ	8,800	101.1	48,569	98.6	9,034	101.5	57,603	99.1
	3	ディストリビュータ	601	92.2	3,667	95.9	662	90.9	4,329	95.1
	4	イグニッションコイル	7,599	108.4	41,311	96.8	8,082	105.6	49,393	98.1
	5	プラグ	11,029	90.9	67,485	102.4	11,125	89.5	78,610	100.4
		合 計	35,438	99.1	201,599	98.6	36,850	97.4	238,449	98.4
二輪自動車 部品 (4品目)	1	気化器	791	110.9	4,855	104.5	855	108.9	5,710	105.1
	2	ショックアブソーバ	1,942	108.8	12,742	106.4	2,092	91.0	14,834	103.9
	3	計器類	999	89.0	6,361	89.2	1,154	90.1	7,515	89.3
	4	ブレーキ装置	1,934	120.9	10,962	101.9	2,242	138.5	13,204	106.7
		合 計	5,666	108.5	34,920	101.2	6,343	106.0	41,263	101.9

(注)：経済産業省「生産動態統計」の見直しにより

①平成21年1月より／「自動車用蓄電池」を「自動車用蓄電池（二輪自動車用を除く）」に変更。

②平成23年1月より／「オレオ（ショックアブソーバを含む）」を「ショックアブソーバ」に変更。

③平成26年1月より／品目の掲載順序を一部変更。

④平成26年1月より／「エアバッグモジュール」の定義を変更。

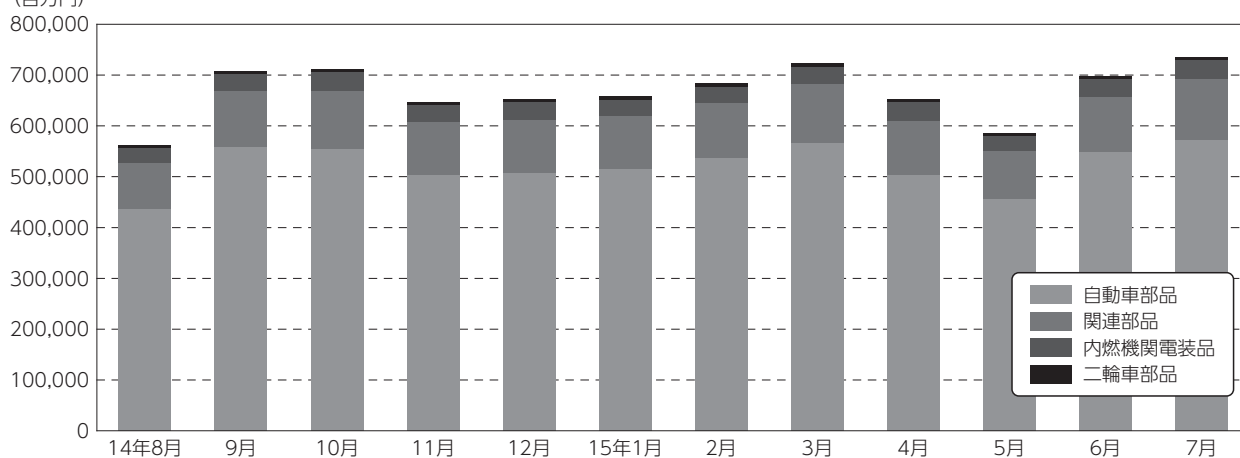
そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。

接続係数を前年の数値に掛けて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。

⑤平成26年1月より／「オイルシール」の生産額の掲載が廃止になったため、「オイルシール」のみ販売額を計上しています。

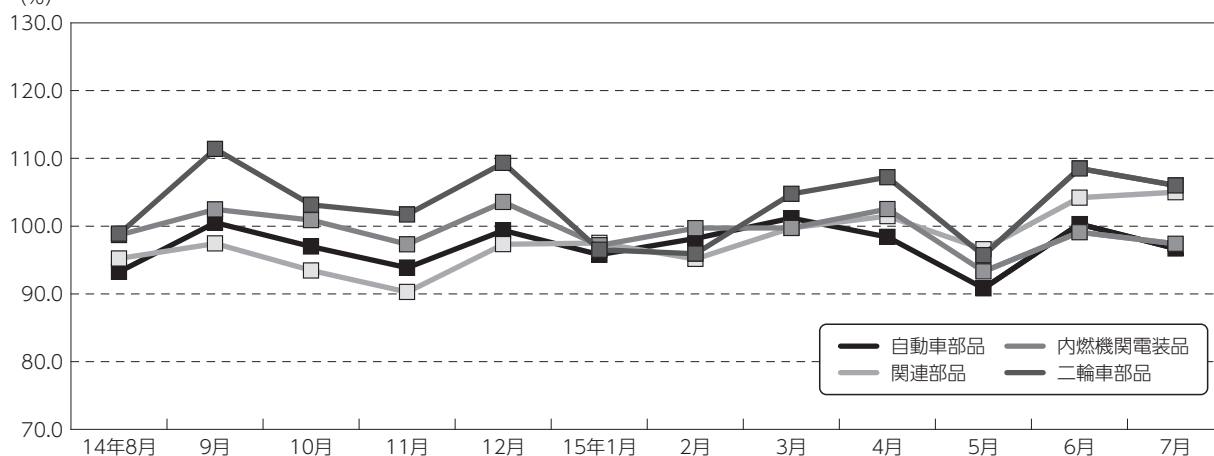
■最近12ヶ月の自動車部品の生産推移

(百万円)



■自動車部品生産の対前年同月比の状況

(%)



JAPIA NEWS

2015
11・12
隔月刊

一般社団法人 日本自動車部品工業会

(通巻710号)

目次

- 07 巻頭言
中小企業施策委員会委員長・石川 伸一郎
- 09 **リクルート特集**
車好きだけではなく
自動車部品メーカーを選ぶ理由
— 安定的な成長のために —
- 15 **DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.6**
アジア新興国経済の減速と
今後の見通し
日本政策投資銀行
- 17 工業会業務レポート・スケジュール
- 22 北米事務所だより Vol.115
- 23 支部活動レポート
中部支部視察報告
- 27 日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト
- 30 指標・統計

平成27年11月15日発行
(隔月1回15日発行)

■発行所

一般社団法人
日本自動車部品工業会
〒108-0074
東京都港区高輪1-16-15
電話 03-3445-4212
FAX 03-3447-5372

■編集

日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1-10-11
芝大門センタービル3階
電話 03-5777-2351(代表)

■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

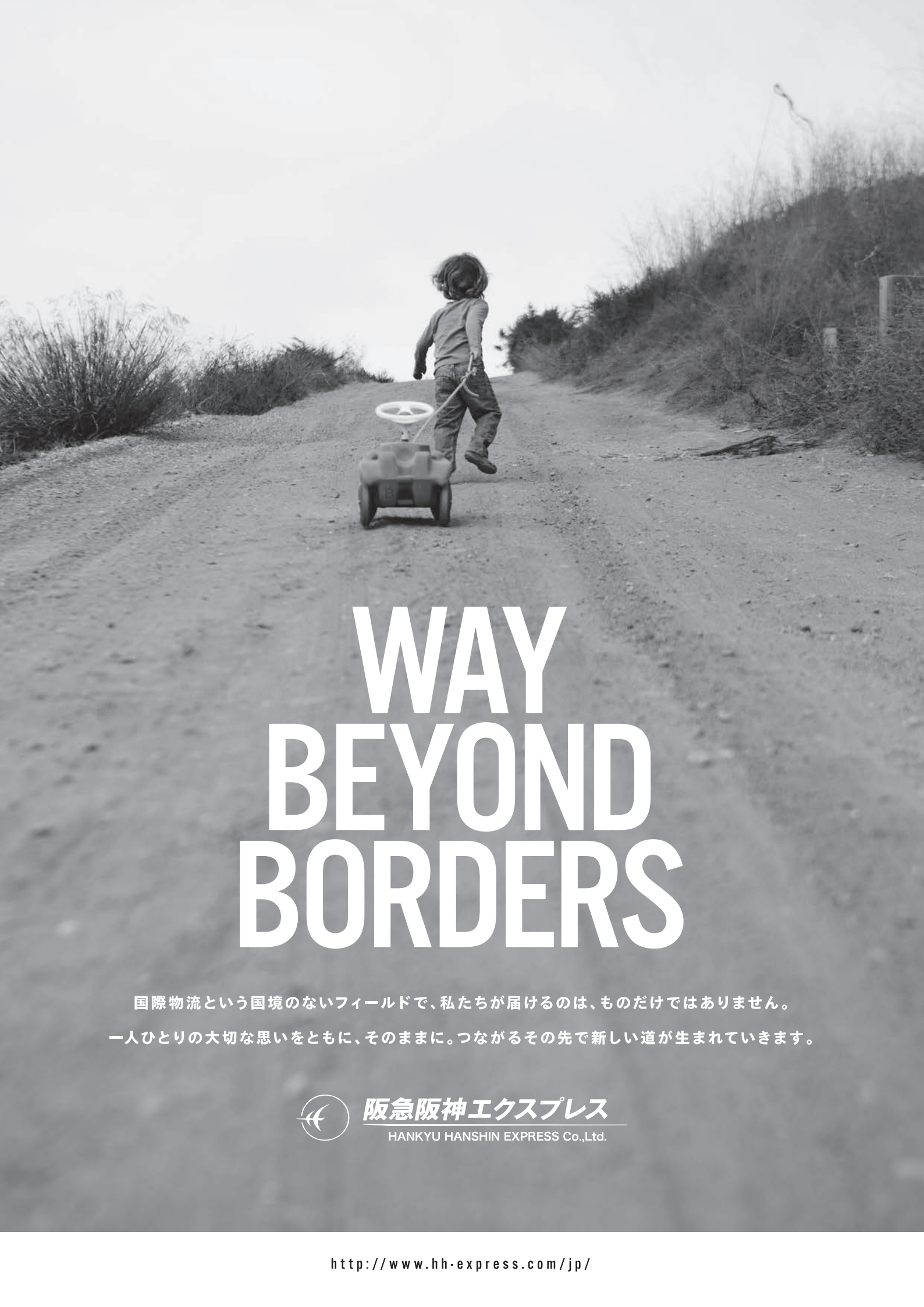
JAPIA会員企業様向け
最新のTS16949セミナーの情報・案内等は… www.lapj.co.jp まで

ISO教育コンサルティング
株式会社エルエーピー

LAP ISO
Lead Auditor Project Team



〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 TEL:03-5114-2930 Email: iso@lapj.co.jp

A black and white photograph of a child with curly hair, seen from behind, pushing a small toy car on a dirt path. The path leads into the distance, flanked by dry, brushy vegetation. The sky is overcast.

WAY BEYOND BORDERS

国際物流という国境のないフィールドで、私たちが届けるのは、ものだけではありません。
一人ひとりの大切な思いをともに、そのままに。つながるその先で新しい道が生まれていきます。



阪急阪神エクスプレス

HANKYU HANSHIN EXPRESS Co.,Ltd.

WHY? NGK SPARK PLUGS



信頼で選ぶなら

なぜ佐藤琢磨は スパークプラグの 交換をオススメ するのか。

走りの原点であるスパークプラグの交換が、愛車を長く大事に乗るコツ。燃費やエンジンのレスポンスの向上、アイドリングの安定にもつながります。スパークプラグは消耗品ですから、こまめなチェックと定期的な交換をオススメします。



一般プラグ



イリジウムIXプラグ



プレミアムRXプラグ

レーシングドライバー 佐藤琢磨

NGK | NTK 日本特殊陶業
スパークプラグ ニューセラミック

<http://www.ngkntk.co.jp/>

平成27年11月15日発行 通巻710号
「JAPIA NEWS」2015年11・12月号